



特別支援学校の小学部児童指導要録・ 中学部生徒指導要録の手引

令和2(2020)年3月

栃木県教育委員会

ま え が き

平成 29(2017)年 3 月に小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領が、同年 4 月には特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が告示されました。

学習評価や指導要録の改善についても、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において取りまとめられた「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成 31(2019)年 1 月 21 日）（以下「報告」という。）を受けて、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成 31(2019)年 3 月 29 日）（以下「通知」という。）が文部科学省から発出されました。

各学習指導要領においては、各教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理しています。これを受け、通知においては、学習評価の主な改善点として、指導と評価の一体化を推進する観点から観点別学習状況の評価の観点についてもこれらの資質・能力にかかわる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点に整理して示しています。

学習評価に関する基本的な考え方は、障害のある児童生徒の学習評価についても変わることではなく、個々の状況に応じた評価方法の工夫改善を通じて、各教科等の目標や内容に応じた学習状況を適切に把握し、指導や学習の改善に生かしていくことを基本に、それぞれの実態に応じた対応をすることが求められます。

以上を踏まえ、各学校においては、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進め、学習評価の妥当性、信頼性を高めるよう努めることが重要となります。

県教育委員会では、本年度、特別支援学校の小学部児童指導要録・中学部生徒指導要録の手引作成委員会を設置し、報告及び通知の趣旨を踏まえた指導要録作成のための参考資料として、本書を取りまとめました。

本書では、第 1 章に学習評価の基本的な考え方等について、第 2 章に指導要録の取扱いや記入上の注意等について示すとともに、学校現場で活用しやすいように記入例等を掲載しています。

各学校においては、本書を十分活用し、学習指導要領の下での学習評価及び指導要録作成を適切に行っていただくようお願いします。

最後に、本書の作成に当たり、御尽力くださいました特別支援学校の小学部児童指導要録・中学部生徒指導要録の手引作成委員会の委員各位に厚く御礼申し上げます。

令和 2 (2020)年 3 月

栃木県教育委員会事務局

特別支援教育室長 松本美智代

目 次

第1章 学習評価	1
第1 学習評価の基本的な考え方	1
1 カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価	1
2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価	1
3 学習評価の改善の基本的な方向性	1
第2 学習評価の基本的な枠組み	1
1 学習評価の基本構造	1
2 観点別学習状況の評価	2
第3 学習評価の円滑な実施に向けた取組	3
第4 障害のある児童生徒に係る学習評価	3
第2章 指導要録	4
第1 概要	4
第2 取扱い	4
1 取扱い上の注意	4
2 とじ方、整理の仕方	6
3 統合型校務支援システム導入による電子化	6
第3 記入上の注意	7
1 全般的事項	7
2 学籍に関する記録（様式1）	9
3 指導に関する記録（様式2）	15
〔1〕〔視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校〕小学部	15
〔2〕〔視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校〕中学部	19
〔3〕〔知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校〕小学部及び中学部	23
<指導要録様式>	27
【別紙1】〔視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校〕小学部児童指導要録 様式1（学籍に関する記録）	29
様式2（指導に関する記録）	31
【別紙2】〔視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校〕中学部生徒指導要録 様式1（学籍に関する記録）	33
様式2（指導に関する記録）	35

【別紙 3】 [知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校] 小学部児童指導要録	
様式 1 (学籍に関する記録)	37
様式 2 (指導に関する記録)	39
【別紙 4】 [知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校] 中学部生徒指導要録	
様式 1 (学籍に関する記録)	41
様式 2 (指導に関する記録)	43
<指導要録記入例>	45
記入例 1 特別支援学校 小学部児童指導要録 様式 1 (学籍に関する記録)	45
記入例 2 特別支援学校 中学部生徒指導要録 様式 1 (学籍に関する記録)	46
記入例 3 [視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を 行う特別支援学校] 小学部児童指導要録 様式 2 (指導に関する記録)	47
記入例 4 [視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を 行う特別支援学校] 中学部生徒指導要録 様式 2 (指導に関する記録)	49
記入例 5 [知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校] 小学部児童指導要録 様式 2 (指導に関する記録)	51
記入例 6 [知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校] 中学部生徒指導要録 様式 2 (指導に関する記録)	53
<評価事例>	55
評価事例 1 自立活動の記録	55
評価事例 2 総合所見及び指導上参考となる諸事項	57
<付属資料>	58
各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨	
(小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部)	58
1-1. 小学校及び特別支援学校(視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱)小学 部並びに中学校及び特別支援学校(視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病 弱)中学部における各教科の学習の記録	58
1-2. 特別支援学校(知的障害)小学部及び特別支援学校(知的障害)中学部にお ける各教科の学習の記録	78
2-1. 小学校及び特別支援学校(視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱)小学 部における外国語活動の記録	83
2-2. 特別支援学校(知的障害)小学部における外国語活動の記録	83
3. 総合的な学習の時間の記録	83
4. 特別活動の記録	84
5. 行動の記録	85

第4 指導要録の抄本及び写し	87
1 取扱い	87
2 指導要録抄本	87
3 指導要録の写し	88
<指導要録抄本様式>	89
【別紙5】 [視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校] 小学部児童指導要録抄本	90
【別紙6】 [視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校] 中学部生徒指導要録抄本	91
【別紙7】 [知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校] 小学部児童指導要録抄本	92
【別紙8】 [知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校] 中学部生徒指導要録抄本	93

◎本書では、以下のように表記します。

学習指導要領	平成 29 年改訂学習指導要領（小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領）
小学校学習指導要領等	平成 29 年改訂学習指導要領（小学校学習指導要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領）
中学校学習指導要領等	平成 29 年改訂学習指導要領（中学校学習指導要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領）
特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）	視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校
特別支援学校（知的障害）	知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校
道徳科	特別の教科 道徳

◎関係法令等については、「小学校児童指導要録・中学校生徒指導要録の手引」（令和（2020）年2月・栃木県教育委員会事務局義務教育課）の「第4章 関係法令等」を参照してください。

栃木県ホームページ

[栃木県ホーム > 教育・文化 > 学校教育 > 小・中学校 > [指導資料]【義務教育課】
> 現職教育資料]

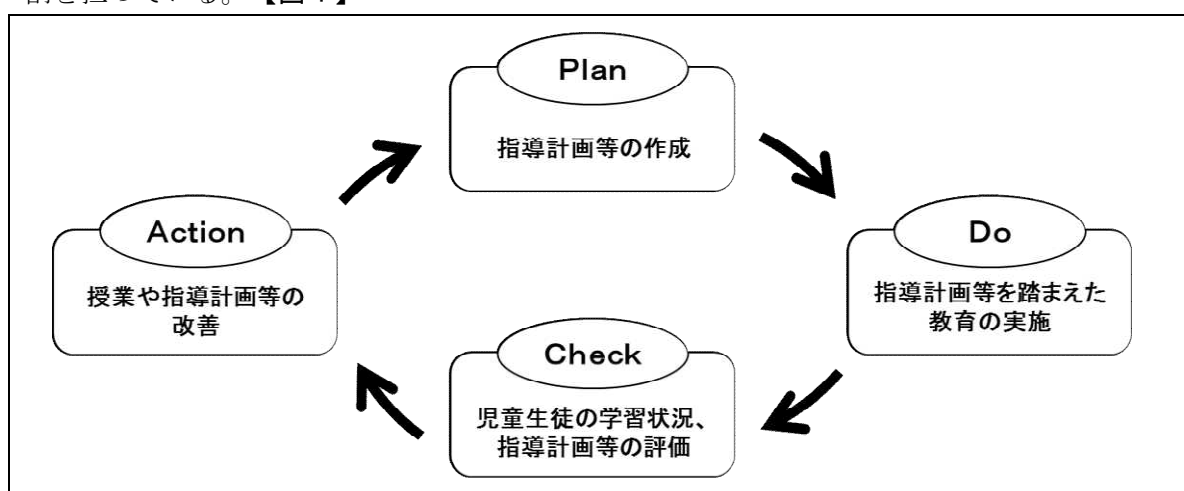
第1章 学習評価

第1 学習評価の基本的な考え方

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものである。「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。

1 カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っている。【図1】



【図1】「学習指導」と「学習評価」に係るPDCAサイクル

2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

指導と評価の一体化を図るために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。

3 学習評価の改善の基本的な方向性

- 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

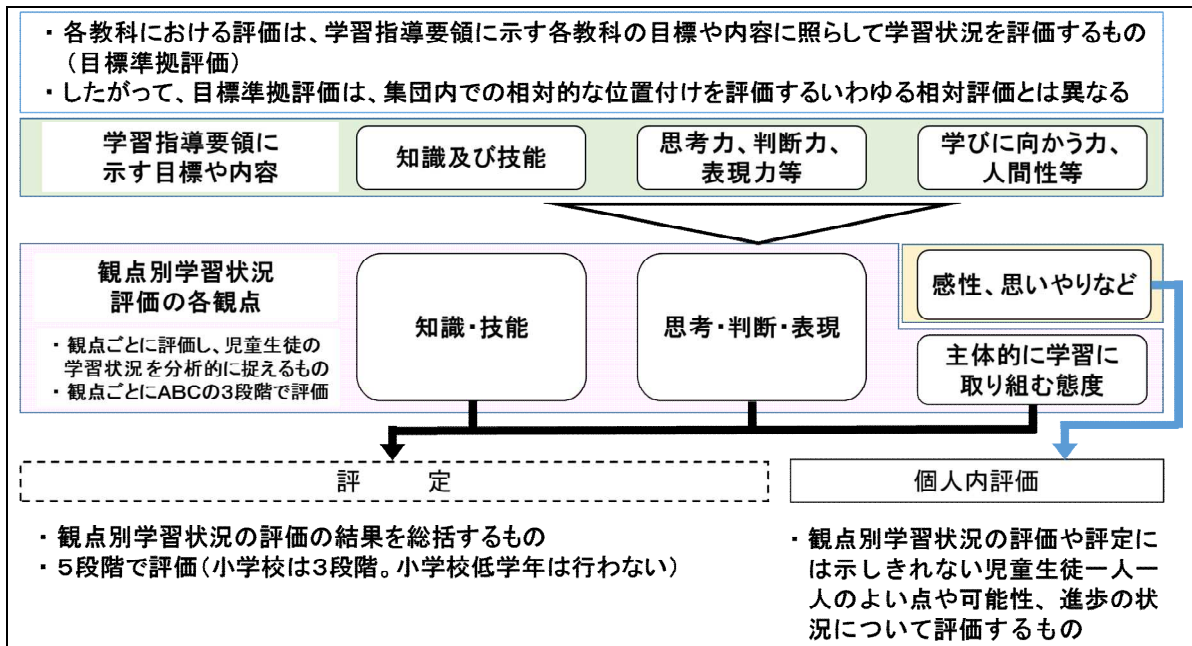
第2 学習評価の基本的な枠組み

1 学習評価の基本構造

各教科の評価については、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と、これらを総括的に捉える「評定」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施し、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒の一人一人のよ

い点や可能性、進歩の状況については、「個人内評価」として実施する。【図2】

なお、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動についても、学習指導要領で示したそれぞれの目標や特質に応じ、適切に評価する。



【図2】各教科における評価の基本構造

2 観点別学習状況の評価

観点別学習状況の評価とは、学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況がどのようなものであるかを、観点ごとに評価し、児童生徒の学習状況を分析的に捉えるものである。

学習指導要領で、各教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で整理されていることを踏まえ、各教科等における観点別学習状況の評価について指導と評価の一体化を推進する観点から、観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されている。

(1) 「知識・技能」

各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価する。

(2) 「思考・判断・表現」

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。

第3 学習評価の円滑な実施に向けた取組

学習評価の円滑な実施に向けては、各校において以下の取組を行うことが重要である。

- 1 学習評価の妥当性、信頼性を高めるため、学校全体で組織的かつ計画的な取組を行う。
 - ・評価規準や評価方法を事前に教師同士で検討し明確化する。
 - ・評価に関する実践事例を蓄積し共有する。
 - ・評価結果についての検討等を通じて評価に関する教師の力量の向上を図る。
 - ・教務主任や研究主任を中心として学年会や教科等部会等の校内組織を活用する。
- 2 学習評価については、授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要である。したがって、観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎日の授業ではなく原則として単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選する。
- 3 観点別学習状況の評価になじまず個人内評価の対象となるものについては、児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で児童生徒に伝える。特に「学びに向かう力、人間性等」のうち「感性や思いやり」など児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝える。
- 4 言語能力、情報活用能力等の教科等横断的な視点で育成を目指すこととされた資質・能力は、各教科等における「知識・技能」等の評価に反映し、各教科等の学習の文脈の中でこれらの資質・能力が横断的に育成・発揮されるようにする。
- 5 学習評価の妥当性や信頼性を高めるとともに、児童生徒自身に学習の見通しをもたせるために、学習評価の方針を事前に児童生徒と共有する場面を必要に応じて設ける。その際、児童生徒の障害の状態や発達の段階等を踏まえ、適切な工夫を行う。
- 6 全国学力・学習状況調査等の外部試験や検定等の結果については、児童生徒の学習状況を把握するための補完材料として必要に応じて活用する。

第4 障害のある児童生徒に係る学習評価

学習評価に関する基本的な考え方は、障害のある児童生徒についても同様であるが、一人一人の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じた指導内容や指導方法の工夫を行い、その評価を適切に行うことが必要である。

特別支援学校（知的障害）の各教科については、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領において、小・中学校等の各教科と同様に、育成を目指す資質・能力の三つの柱で目標及び内容が整理されたことを踏まえ、その学習評価においては、文章による記述という考え方を維持しつつ、観点別の学習状況を踏まえた評価を取り入れる。

第2章 指導要録

第1 概要

指導要録は、児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿としての性格をもつものである。

また、指導要録は、指導のための資料として、学年末に1年間の学習の状況を総括的に評価するものであるが、その記録を確かなものにするため、そこに至るまでの日頃の継続的な評価の充実が重要である。この意味から、指導要録における評価の方法や観点等は、日頃の指導と評価に当たって重要な役割を果たすものである。

第2 取扱い

1 取扱い上の注意

指導要録の作成、送付及び保存等については、次の事項に留意する。

なお、進学、転学の場合に作成する指導要録の抄本及び写しの取扱い等については、「第4 指導要録の抄本及び写し」(P.87・88)によるものとする。

(1) 入学の場合

校長は、児童生徒が入学した場合は、速やかに指導要録を作成する。

(2) 進学の場合

校長は、児童生徒が進学した場合は、当該児童生徒の指導要録の抄本又は写しを作成し、これを進学先の校長に送付する。

(3) 転学の場合

校長は、児童生徒が転学（他の特別支援学校等に転校）した場合は、指導要録の抄本又は写しを作成し、それを転学先の校長に送付する。転入学（他の特別支援学校等から転校）してきた児童生徒が更に転学した場合は、指導要録の写し及び転学により送付を受けた写しを送付する。これらの場合、進学元（幼稚園、保育所、認定こども園、小学校、特別支援学校小学部等）から送付を受けた抄本又は写しも転学先の校長に送付する。

また、児童自立支援施設、児童心理治療施設又は少年院に入所・入院し、就学義務の猶予・免除を受けていた児童生徒が転学した場合は、それらの施設から送付を受けた指導要録に準じる記録の写しも送付する。

(4) 転入学の場合

校長は、児童生徒が転入学した場合は、当該児童生徒が転入学した旨及びその期日を、前に在学していた学校の校長に速やかに連絡し、当該児童生徒の指導要録の写しの送付を受ける。

なお、この場合、校長は、新たに当該児童生徒の指導要録を作成すべきであって、送付を受けた写しに連続して記入してはならない。

(5) 学校統合、学校新設等の場合

学校名及び所在地の変更として取り扱うか、上記(3)及び(4)に準じて取り扱うかは実情に応じて処理する。

(6) 退学等の場合

ア 校長は、児童生徒が外国にある学校などに入るため退学した場合等においては、当該学校が日本人学校その他の文部科学大臣が指定した在外教育施設であるときにあっては、

上記(2)及び(3)に準じて指導要録の抄本又は写しを送付するものとし、それ以外の学校などにあつては、求めに応じて適切に対応する。

イ 校長は、児童生徒が児童自立支援施設、児童心理治療施設に入所又は少年院に入院し、就学義務の猶予・免除を受けた場合は、上記(3)に準じて、当該児童生徒の指導要録の写しを入院先の施設長に送付し、児童生徒の教育に資するものとする。

なお、本県にある児童自立支援施設及び児童心理治療施設においては、学校教育が実施されているため、入所に当たって就学義務の猶予・免除を受ける必要はなく、通常の転学の手続きとなる。

(7) 編入学等の場合

ア 校長は、児童生徒が外国にある学校などから編入学をした場合は、編入学年月日以後の指導要録を作成する。その際、できれば、外国にある学校などにおける履修状況の証明書や指導に関する記録の写しの送付を受ける。

イ 校長は、就学義務の猶予・免除を受けていた児童生徒が児童自立支援施設、児童心理治療施設又は少年院から移った場合は、それぞれの施設長の発行した証明書及び指導要録に準じる記録の写しの送付を受け、移った日以後の指導要録を作成する。

ウ 校長は、就学義務の猶予・免除の事由がなくなったことにより就学義務が生じ、児童生徒が就学した場合は、就学した日以後の指導要録を作成する。

(8) 保存

ア 保存期間

(7) 学校においては、指導要録及び転入学の際送付を受けた写しのうち、学籍に関する記録については20年間、指導に関する記録については5年間保存する。

(4) 幼稚園、特別支援学校等から送付を受けた指導要録の抄本又は写しは、児童生徒が当該学校に在学する期間保存する。

(5) 外国にある学校などに入るための退学の場合、学齢を超過している児童生徒の退学の場合、児童自立支援施設、児童心理治療施設又は少年院への入所・入院などによる就学義務の猶予・免除の場合、又は児童生徒の居所が1年以上不明の場合は、指導要録及び転入学の際送付を受けたその写しは、校長が退学又は在学しない者と認めた日以後、学籍に関する記録については20年間、指導に関する記録については5年間保存する。

イ 保存期間経過後の処置

保存期間を経過した指導要録、その写し及び抄本については、直ちに廃棄するなどの適切な処置をする。その際、厳重な管理のもとに処分すること。

なお、保存期間を経過しながら処分されていなかった指導要録に関して、成績証明等の依頼が外部からあった場合でも、証明すべきではない。

(9) その他

ア 対外的に証明書等を作成する必要がある場合には、指導要録の記載事項をそのまま転記することは必ずしも適切ではないので、個人情報保護や教育的な配慮の観点から、申請の趣旨等を確認した上で、証明の目的に応じて必要な事項のみを記載するなどの配慮が必要である。

イ 指導要録は、学習指導の過程及び結果の要約を記録するものであり、その様式や記載方法等を学校と家庭との連絡に用いるいわゆる通信票等にそのまま転用することは必ず

しも適切ではない。したがって、学校においては、指導要録における各教科等の評価の考え方を踏まえ、児童生徒の学習の過程や成果、一人一人の可能性などについて適切に評価し、児童生徒一人一人のその後の学習を支援することに役立つようにする観点から、通信票等の様式や記載内容等について工夫改善に努める必要がある。

ウ 配偶者からの暴力の被害者と同居する児童生徒については、転学した児童生徒の指導要録の記述を通じて転学先の学校名や所在地等の情報が配偶者（加害者）に伝わることに懸念される場合がある。

このような特別の事情がある場合には、「配偶者からの暴力の被害者の子どもの就学について」（平成21年7月13日付け21生参学第7号）に沿って、配偶者からの暴力の被害者と同居する児童生徒の転学先や居住地等の情報については、各地方公共団体の個人情報保護条例等に基づき、配偶者暴力相談支援センターや福祉部局等との連携を図りながら、厳重に管理する。

2 とじ方、整理の仕方

(1) とじ方、記入事項

ア 指導要録は、学級ごとに様式1（学籍に関する記録）と様式2（指導に関する記録）を別々にし、表紙、名列表（索引表）を付してとじて（左とじ）おく。

イ 児童生徒が入学、編入学又は転入学した後、直ちに指導要録を作成し、当該児童生徒の氏名及び住所を記入するとともに、名列表（索引表）にも氏名と事由を記しておく。転入学等の際は、送付を受けた写しも併せてとじておく。

ウ 児童生徒が転学又は退学したときは、直ちにつづりからはずし、別に整理して保存するようにする。この際、名列表（索引表）の当該児童生徒氏名を朱一本線で削除し、事由を付記しておく。

(2) 表紙

表紙はなるべく厚い紙を用い、その内容を示すのに必要な事項を表紙に記載しておく。

〈例〉

令和〇年度入学				
児童指導要録様式1（学籍に関する記録）				
栃木県立〇〇特別支援学校				
年	度			
学	級			
担任氏名				
校長氏名				

(3) その他

原級留置の場合には、新たに指導要録を作成し、その学年以降の記録を記入する。なお、それ以前の指導要録も併せてとじておく。

3 統合型校務支援システム導入による電子化

統合型校務支援システム導入による電子化に関して必要な事項は、別に定めるところによるものとする。

第3 記入上の注意

1 全般的事項

(1) 記入用字

原則として「常用漢字表」（平成22年11月30日内閣告示）及び「送り仮名の付け方」等、現代の国語を書き表すための目安やよりどころに従い、横書きを基本に常体で記入する。なお、固有名詞についてはこの限りではない。

(2) 筆記用具

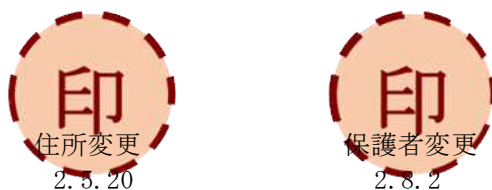
黒又は青インクを用い、変色のおそれのあるものの使用は避ける。なお、記入箇所によってはゴム印を用いてもよい。コンピュータ等を使用して指導要録を作成するに当たっては、「学籍に関する記録」については、当該児童生徒の在籍が生じた初年度に限るものとするが、「指導に関する記録」については、在籍2年目以降も可とする。その場合は、秘密の保持やプライバシー保護及び、記載内容の改ざん防止や真実性保持の観点からデータ等の保存や管理に十分注意する。

(3) 記載事項の変更

記載事項に変更のあった場合は、その都度、旧事項を朱一本線で削除し、余白に新事項を記入することを原則とする。その際、欄外に、次のような変更事項、変更日付を書いて押印（記入者の認印）する。

なお、余白のない場合は、はり紙（旧事項が確認できるよう、片端糊付け）をして記入する方法もあるが、写しの作成等に支障をきたすので、できるだけ余白に記入するようにする。

<例>



(4) 記載事項の誤記の訂正

記載事項の誤記を訂正する場合は、記載事項を朱二本線で削除して訂正事項を記入し、訂正箇所に押印（訂正者の認印）する。

(5) 記入時期等

「学籍に関する記録」の各欄は、児童生徒が入学、編入学、転入学及び進級した際に記入し、転学・退学等の異動が生じた場合はその時点で記入する。「指導に関する記録」の「各教科の学習の記録」等の欄は、学年末など、その事実の生じた時点で記入する。記載事項に変更があった場合は、その都度修正する。【表1】

なお、記載事項に変更・併記が生じることのある欄は、新事項を下部に記入できるように、その欄の上部に寄せて記入する。

【表 1】指導要録の各欄の記入時期

		入学時	進級時	学年末	卒業時	編入学時	転入学時	転学・退学等時	
学籍に関する記録	学級及び整理番号	○	○			○	○		
	児童〔小学部〕 生徒〔中学部〕	} (※)	○				○	○	
			保護者 (※)	○				○	○
	入学前の経歴	○							
	入学・編入学等	○				○			
	転入学						○		
	転学・退学等							○	
	卒業				○				
	進学先〔小学部〕 進学先・就職先等〔中学部〕				○				
	学校名及び所在地（分校名・所在地名等）(※)		○				○	○	
	校長氏名印・ 学級担任者氏名印 (※)	記入	○	○			○	○	
押印				○				○	
指導に関する記録	児童氏名〔小学部〕 生徒氏名〔中学部〕	○				○	○		
	学校名	○				○	○		
	学級及び整理番号	○	○			○	○		
	入学時の障害の状態	○							
	各教科の学習の記録 等			○					

※ 新事項を下部に記入できるように、上部に寄せて記入する。なお、児童〔小学部〕、生徒〔中学部〕及び保護者は、現住所の欄のみ、上部に寄せて記入する。

2 学籍に関する記録（様式1）

(1) 学級及び整理番号

各学年の学級名及び出席番号等の番号を記入する。

普段、学級名として学級担任名、「重複障害学級」や「訪問教育学級」等の名称を用いている場合も、指導要録における学級名は数字を用いることが望ましい。なお、単学級の場合にも、学年で最初の学級であることを明確に示すために記入する。

(2) 学籍の記録

この欄は、原則として学齢簿の記載に基づき、学年当初及び異動の生じた時に記入する。

ア 児童〔小学部〕、生徒〔中学部〕

(ア) ふりがなは平仮名で記入する。なお、学齢簿にふりがなが記載されていない場合は、別に「児童個人票」、「生徒個人票」等で確認の上記入する。

(イ) 現住所は略記しない。

(ウ) 「性別」の欄には、「男」又は「女」と記入する。

(エ) 外国籍児童生徒の氏名は、住民基本台帳等の情報に基づいて作成された学齢簿に準じるものに基づいて氏名を表記する。学齢簿に準じるものを作成していない場合には、在留カード、特別永住者証明書又は住民票に記載された氏名を表記する。

なお、通称名を使用する場合は本名の下に、括弧書きで通称名を記入する。

また、ふりがなについては、発音に最も近い形で、本名、通称名ともに記入する。

片仮名を用いてもよい。

イ 保護者

(ア) 「氏名」の欄には、児童生徒に対して親権を行う者を、親権を行う者がいないときは後見人を記入する。

(イ) 「現住所」の欄については、児童生徒の現住所と同一の場合には、「児童の欄に同じ」又は「生徒の欄に同じ」と略記する。

<例>

児 童	ふりがな	とちぎ はなこ	性別	女
	氏名	栃木 はな子		
	生年月日	平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日生		
	現住所	栃木県○○市○○町○丁目○番○号		
保 護 者	ふりがな	とちぎ いちろう		
	氏名	栃木 一郎		
	現住所	児童の欄に同じ		

ウ 入学前の経歴

(7) 第1学年に入学するまでの教育又は保育関係の略歴を記入する。

<例> 小学部

- 幼稚園在園（年月日～年月日）
- 保育所(園)在所(園)（年月日～年月日）
- 認定こども園（年月日～年月日）

中学部

- 市立○○小学校卒業
- 県立○○特別支援学校小学部卒業

(4) 外国において受けた教育の実情などもこの欄に記入する。

<例> ○○共和国 ○○市○○日本人学校小学部の課程修了

エ 入学・編入学等

(7) 「入学」とは、児童生徒が第1学年に初めて就学することをいう。

この場合は、「入学・編入学等」の欄に、第1学年に入学した年月日を記入する。

この年月日は、入学期日（県教育委員会が指定した期日。原則として4月1日）を記入し、「第1学年編入学」の文字は黒又は青の一本線で削除する。

なお、期日に遅れて出校した場合も指定の入学期日を記入する。

また、他の学校に入学した者が第1学年の途中で転入学した場合は、この欄に記入しないで「転入学」の欄に記入する。

(4) 「編入学等」とは、第1学年の中途又は第2学年以上の学年に、在外教育施設や外国の学校から編入した場合又は就学義務の猶予・免除の事由の消滅により就学義務が発生した場合をいう。

この場合は、「入学・編入学等」の欄に、学校に編入学した年月日（県教育委員会が指定した期日）、学年及び事由等を記入する。

なお、この場合には「第1学年入学」の文字を黒又は青の一本線で削除する。

<例>

・入学の場合

入学・編入学等	令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日 第 1 学年 入学 第 1 学年編入学
---------	--

・外国の学校等から編入学した場合

入学・編入学等	令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日 第 1 学年 入学 第 ○ 学年編入学 ○○共和国○○市○○スクールより編入学
---------	---

オ 転入学

「転入学」とは、他の特別支援学校等から転校してきた場合をいう。

この場合は、転入学の欄に、転入学年月日、転入学年、前に在学していた学校名、所在地及び転入学の事由等を記入する。

<例>

- ・特別支援学校小学部から転校してきた場合

転 入 学	令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日 第 ○ 学年転入学 〇〇県立〇〇特別支援学校 〇〇県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号 転居のため
-------	---

カ 転学・退学等

上記エ及びオに記入された日以後における異動について記入する。

(ア) 転学の場合

「転学」とは、他の特別支援学校等に転校する場合をいう。

この場合は、上部括弧内に転学のために学校を去った年月日（出校した最後の日）、下部の年月日欄に転学先の学校が受け入れた年月日の前日を記入し、その下の余白に転学先の学校名及び転入学年、所在地、その事由等を記入する。

<例>

- ・特別支援学校小学部へ転校した場合

転学・退学等	(令和 ○ 年 6 月 17 日) 令和 ○ 年 6 月 17 日 〇〇県立〇〇特別支援学校 小学部第○学年 〇〇県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号 転居のため
--------	--

(イ) 退学等の場合

「退学」等には、外国にある学校等に就学するために退学する場合、学齢（満 15 歳に達した日の属する学年の終わりまで）を超過している児童生徒が退学する場合、在学しない者として取り扱う場合と児童生徒が死亡したことがある。

a 外国にある学校等に就学するために退学する場合

校長が退学を認めた年月日を下部の年月日欄に記入し、その事由等及び学校名（施設名）を余白に記入する。

b 学齢を超過している児童生徒が退学する場合

校長が退学を認めた年月日を下部の年月日欄に記入し、その事由等を余白に記入する。

c 在学しない者として取り扱う場合

就学義務の猶予・免除の措置がされた場合や、児童生徒の居所が1年以上不明で在学しない場合は、在学しない者として取り扱い、校長が在学しない者と認めた年月日を上部括弧内に記入し、その事由等を余白に記入する。

なお、就学義務の猶予・免除を受けて児童自立支援施設、児童心理治療施設に入所又は少年院に入院の場合は、児童生徒の指導の連続性を確保するためにも、転学に準じて、施設名及び所在地を記入する。

d 児童生徒が死亡した場合

死亡した年月日を下部の年月日欄に記入し、その事由を余白に記入する。

<例>

・外国にある学校に入るために退学する場合

転学・退学等	(年 月 日) 令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日 〇〇共和国へ転居のため退学 〇〇共和国〇〇市〇〇スクール
--------	---

・児童が死亡した場合

転学・退学等	(年 月 日) 令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日 死亡のため
--------	--

キ 卒業

校長が卒業を認定した年月日（原則として3月31日）を記入する。

ク 進学先〔小学部〕、進学先・就職先等〔中学部〕

(ア) 進学の場合

進学先の学校名及び所在地を記入する。

<例>

・自校中学部へ進学した場合

進 学 先	栃木県立〇〇特別支援学校中学部 〇〇県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号
-------	---

(イ) 就職の場合〔中学部〕

就職先の事業所名及び所在地を記入する。

なお、就職しながら進学した者については、進学先の学校名及び所在地を併せて記入する。

(ウ) その他

障害者支援施設に入所・通所した者については、事業所名及び所在地、利用状況（入所又は通所）を記入する。

家事又は家業に従事した者、在宅になった者については、その旨を記入する。

なお、学齢の超過による退学の場合には、退学後の状況もこの欄に記入する。

<例>

- ・ 障害者支援施設に入所した場合

進 学 先 就 職 先 等	障害者支援施設 ○○ 入所 栃木県○○市○○町○丁目○番○号
------------------	-----------------------------------

- ・ 在宅になった場合

進 学 先 就 職 先 等	在 宅
------------------	-----

(3) 学校名及び所在地（分校名・所在地名等）

学校名は、「栃木県立○○特別支援学校」のように記入し、所在地は、「栃木県○○市○○町○丁目○番○号」のように記入する。

分校の場合は、本校名及び本校の所在地を記入し、その下部に、分校名、所在地及び在学した学年等を併せて記入する。

<例>

- ・ 分校の場合

学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)	栃木県立○○特別支援学校 栃木県○○市○○町○丁目○番○号 ○○分校 栃木県○○市○○町○丁目○番地○号 第○学年から第○学年まで在学
-------------------------------------	--

(4) 校長氏名印・学級担任者氏名印

学年当初（原則として4月1日）又は児童生徒が転入学等をしたときに、法令上指導要録作成の義務を負う校長の氏名と、その記入を担当する学級担任者の氏名を欄の上部に記入する。

指導要録の作成が完結した学年末又は転学・退学等の際、記入について責任を有する校長及び学級担任者（現任者）が押印（認印）する。

ア 同一年度内に校長又は学級担任者が代わった場合

その都度後任者の氏名をその下方に併記する。この場合、前任者の氏名は削除せず、代わった期間を括弧書きする。その際、変更の理由は記入不要である。

なお、同一教員が連続しない複数の期間担任する場合は、氏名をその都度記入せず、担任した期間を複数回括弧書きする。

<例>

- ・学級担任者が10月1日から岩舟春太に代わった場合

学級担任者 氏名印	二宮 櫻子 岩舟 春太 印 (10.1~3.31)
--------------	---------------------------------

- ・同一教員(氏家夏樹)が連続しない複数の期間担任する場合

学級担任者 氏名印	足尾 螢 印 氏家 夏樹 (5.1~7.31)(12.1~1.31)
--------------	--

イ 正式な担任がいてその代わりの者が担任する場合

産前産後の休暇中における臨時的任用の教員が担任した場合、その氏名を記入する。この場合には、その氏名の最初に(産・補)のように記入し、その担任期間も併記しておく。

学年当初から正式な担任が休暇中で、その代理として臨時的任用の教員が担任する場合は、休暇中である教諭名を記入し、その下に臨時的任用の教員名を記入する。

なお、記入に当たっては、その年度において(4月1日から翌年の3月31日まで)、担任が不在の期間が存在しないことに留意する。

<例>

- ・担任(田沼茜)の育休補充代替教員(栗野秋絵)が4月1日から担任する場合

学級担任者 氏名印	田沼 茜 印 (産・補) 栗野 秋絵 (4.1~6.30)
--------------	-------------------------------------

3 指導に関する記録（様式2）

特別支援学校では個別の指導計画を作成する必要があることから、指導に関する記録を作成するに当たっては、個別の指導計画における指導の目標、指導内容等を踏まえた記述となるよう留意する。

〔1〕〔視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校〕小学部

小学部における指導に関する記録については、小学校における指導に関する記録に記載する事項に加えて、自立活動の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

(1) 各教科の学習の記録

ここには「観点別学習状況」、「評定」の二つの欄が設けられている。これらは、それぞれの欄を生かしながら児童の各教科の学習の状況を総合的に把握するためのものであるから、各欄の性格を十分考慮して記入する。

ア 観点別学習状況

この欄には、小学校学習指導要領等に示された各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価して、次のように区別して記入する。

「十分満足できる」状況と判断されるもの	A
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	B
「努力を要する」状況と判断されるもの	C

各教科の評価の観点については、小学校学習指導要領等を踏まえ、付属資料1-1(P.58~77)を参考に設定する。

イ 評定

第3学年以上の各教科の学習の状況について、小学校学習指導要領等に示された各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し記入する。

各教科の評定は、小学校学習指導要領等に示された各教科の目標に照らして、その実現状況を、次のように区別して評価を記入する。

「十分満足できる」状況と判断されるもの	3
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	2
「努力を要する」状況と判断されるもの	1

評定に当たっては、評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「ア 観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。

その際、評定の適切な決定方法については、各学校において定める。

(2) 特別の教科 道徳

「学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（平成28年7月29日付け28文科初第604号）」に基づき、学習活動における児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を個人内評価として文章で端的に記述する。

(3) 外国語活動の記録

ア 観点

小学校学習指導要領等に示された外国語活動の目標を踏まえ、付属資料 2 - 1 (P. 83) を参考に定める。

イ 評価

アの評価の観点を記入した上で、それらの観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。

(4) 総合的な学習の時間の記録

ア 学習活動

総合的な学習の時間に行った学習活動を簡潔な文言で示す。

イ 観点

小学校学習指導要領等に示された総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて付属資料 3 (P. 83) を参考に定める。

ウ 評価

アの学習活動及びイの観点を記入した上で、それらの観点のうち、児童の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。

(5) 特別活動の記録

ア 観点

小学校学習指導要領等に示された特別活動の目標を踏まえ、各学校において付属資料 4 (P. 84) を参考に定める。その際、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」などのように、より具体的に定めることも考えられる。記入に当たっては、特別活動の学習が学校や学級における集団活動や生活を対象に行われるという特質に留意する。

イ 評価

アの観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点到照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

なお、クラブ活動については、実施しなかった学年の欄に斜線(右上り)を引く。

(6) 自立活動の記録

個別の指導計画を踏まえ、以下の事項等を端的に記入する。

ア 指導目標、指導内容、指導の成果の概要に関すること

イ 障害の状態等に変化が見られた場合、その状況に関すること

ウ 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合、その検査結果に関すること

(7) 行動の記録

ア 項目

各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童の行動について、小学校学習指導要領等の総則及び道徳科の目標や内容、内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえて示している付属資料 5 (P. 85・86) を参考にして、項目を適切に設定する。また、各学校において、

自らの教育目標に沿って項目を追加できるようにする。

イ 評価

各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

(8) 総合所見及び指導上参考となる諸事項

児童の成長の状況を総合的にとらえるため、以下の事項等を文章で箇条書き等により端的に記述する。

記入に際しては、児童の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし、児童の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば端的に記入する。

ア 各教科や外国語活動、総合的な学習の時間の学習に関する所見

各教科や外国語活動、総合的な学習の時間の学習について、総合的に見た場合の児童の特徴や指導上特に留意すべき事項など。

前学年の各教科の目標・内容によって替えて指導した場合は、その旨を記入する。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に規定する重複障害者等に関する教育課程の取扱いにより指導上の配慮を行った場合には、必要に応じてその状況を端的に記入する。

イ 特別活動に関する事実及び所見

特別活動における児童の活動の状況について、所属する係名や委員会名、クラブ名及び学校行事における役割の分担などの主な事実や、その児童個人として比較的優れている点等、特別活動全体を通してみられる児童の特徴など。

ウ 行動に関する所見

行動の状況について、その児童個人として比較的優れている点など、学校生活全体にわたって、総合的に見た場合の児童の特徴や、指導上特に留意する必要があると認められる児童の健康状況の事項など。

エ 児童の特徴・特技、学校内外におけるボランティア活動などの社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項

(ア) 児童の特徴や特技、趣味などのうち、児童の長所を把握する上で特に重要なもの

(イ) 家庭や社会における奉仕活動等の善行、学校内外における表彰を受けた行為や活動及び教育課程外における活動のうち児童の長所と判断されるもの

(ウ) 学力について標準化された検査結果等のうち、その後の指導に生かすことができる具体的な内容

(エ) 海外から帰国した事実など指導上特に必要な事項

オ 児童の成長の状況にかかわる総合的な所見

当該学年の学習や特別活動及び行動等の状況において、当初と学年末とを比較し、進歩が著しい場合、その状況に関すること。

カ 交流及び共同学習

交流及び共同学習を実施している児童について、その相手先の学校名や学級名、実施期間、実施した内容や成果等。

(9) 入学時の障害の状態

入学時の障害の状態について、障害の種類及び程度等を記入する。

(10) 出欠の記録

この欄には、以下の事項を記入する。なお、該当すべき日数がない場合には、空白とせず0と記入する。

ア 授業日数

児童の属する学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。学校保健安全法第20条の規定に基づき、臨時に、学校の全部又は学年の全部の休業を行うこととした日数は授業日数には含めない。

この授業日数は、原則として、同一学年のすべての児童につき同日数とすることが適当である。ただし、転学又は退学等をした児童については、転学のため学校を去った日又は退学等をした日までの授業日数を記入し、転入学又は編入学等をした児童については、転入学又は編入学等をした日以後の授業日数を記入する。

なお、授業とは、学校において編成した教育課程を実施することであるから、例えば、夏季休業期間中における児童の出校日等は、それが教育課程として実施されたものでない限りは授業日とはみなさない。

イ 出席停止・忌引等の日数

以下の日数を合算して記入する。

(ア) 学校教育法第35条による出席停止日数、学校保健安全法第19条及び学校保健安全法施行規則第18条、第19条による出席停止日数並びに感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第19条、第20条、第26条及び第46条による入院の場合の日数

(イ) 学校保健安全法第20条により、臨時に学年の中の一部の休業を行った場合の日数

(ウ) 忌引日数

(エ) 非常変災等児童又は保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくてもよいと認めた日数

(オ) その他教育上特に必要な場合で、校長が出席しなくてもよいと認めた日数

ウ 出席しなければならない日数

授業日数から出席停止・忌引等の日数を差し引いた日数を記入する。

エ 欠席日数

出席しなければならない日数のうち、病気又はその他の事故で児童が欠席した日数を記入する。

オ 出席日数

(ア) 記入

出席しなければならない日数から欠席日数を差し引いた日数を記入する。

(イ) 出席扱いとすることができる場合

a 学校の教育活動の一環として児童が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合

b 「不登校児童生徒への支援の在り方について(令和元年10月25日付け文科初第698号)」に沿って、別記1(義務教育段階の不登校児童生徒が学校外の公的機関や民間施設において相談・指導を受けている場合)及び別記2(不登校児童生徒が自宅においてICT等を活用した学習活動を行った場合)により、校長が出席扱いと認める場合

この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数並びに児童が通所又は入所した学校外の施設名と所在市町名(県外の施設の場合は都道府県名)又は自宅

において I C T 等を活用した学習活動によることを備考欄に記入する。

- c 「小・中学校等における病気療養児に対する同時双方向型授業配信を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について（通知）（平成 30 年 9 月 20 日付け 30 文科初第 837 号）」に沿って、病気療養児に対する教育の一層の充実を図るために同時双方向型授業配信を行った場合

この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数並びに病気療養中の授業配信によることを備考欄に記入する。

カ 備考

出席停止・忌引等の日数に関する特記事項、学校に登校していないが出席扱いとした事由、欠席理由の主なもの、遅刻、早退等の状況その他の出欠に関する特記事項、教員を派遣して教育を行った児童についてはその旨等を記入する。

〔2〕〔視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校〕 中学部

中学部における指導に関する記録については、中学校における指導に関する記録に記載する事項に加えて、自立活動の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

(1) 各教科の学習の記録

ここには「観点別学習状況」、「評定」の二つの欄が設けられている。これらは、それぞれの欄を生かしながら生徒の各教科の学習の状況を総合的に把握するためのものであるから、各欄の性格を十分考慮して記入する。

ア 観点別学習状況

この欄には、中学校学習指導要領等に示された各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、次のように区別して評価を記入する。

「十分満足できる」状況と判断されるもの	A
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	B
「努力を要する」状況と判断されるもの	C

各教科の評価の観点について、中学校学習指導要領等を踏まえ、付属資料 1 - 1 (P. 58~77) を参考に設定する。

選択教科を実施する場合は、各学校において観点を定め、記入する。

イ 評定

各学年における各教科の学習の状況について、中学校学習指導要領等に示された各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し記入する。

必修教科の評定は、中学校学習指導要領等に示された各教科の目標に照らして、その実現状況を、次のように区別して評価を記入する。

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの	5
「十分満足できる」状況と判断されるもの	4
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	3
「努力を要する」状況と判断されるもの	2
「一層努力を要する」状況と判断されるもの	1

評定に当たっては、評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「ア 観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。

その際、評定の適切な決定方法については、各学校において定める。

(2) 特別の教科 道徳

「学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（平成28年7月29日付け28文科初第604号）」に基づき、学習活動における生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を個人内評価として文章で端的に記述する。

(3) 総合的な学習の時間の記録

ア 学習活動

総合的な学習の時間に行った学習活動を簡潔な文言で示す。

イ 観点

中学校学習指導要領等に示された総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて付属資料3（P.83）を参考に定める。

ウ 評価

アの学習活動及びイの観点を記入した上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などに、その特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。

(4) 特別活動の記録

ア 観点

中学校学習指導要領等に示された特別活動の目標を踏まえ、各学校において付属資料4（P.84）を参考に定める。その際、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」などのように、より具体的に定めることも考えられる。記入に当たっては、特別活動の学習が学校や学級における集団活動や生活を対象に行われるという特質に留意する。

イ 評価

アの観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

(5) 自立活動の記録

個別の指導計画を踏まえ、以下の事項等を端的に記入する。

ア 指導目標、指導内容、指導の成果の概要に関すること

イ 障害の状態等に変化が見られた場合、その状況に関すること

ウ 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合、その検査結果に関すること

(6) 行動の記録

ア 項目

各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる生徒の行動について、中学校学習指導要領等の総則及び道徳科の目標や内容、内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえて示している付属資料5 (P.86) を参考にして、項目を適切に設定する。また、各学校において、自らの教育目標に沿って項目を追加できるようにする。

イ 評価

各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

(7) 総合所見及び指導上参考となる諸事項

生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下の事項等を文章で箇条書き等により端的に記述する。

記入に際しては、生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし、生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば端的に記入する。

ア 各教科や総合的な学習の時間の学習に関する所見

各教科や総合的な学習の時間の学習について、総合的に見た場合の生徒の特徴や指導上特に留意すべき事項など。

前学年の各教科の目標・内容によって替えて指導した場合は、その旨を記入する。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に規定する重複障害者等に関する教育課程の取扱いにより指導上の配慮を行った場合には、必要に応じてその状況を端的に記述する。

イ 特別活動に関する事実及び所見

特別活動における生徒の活動の状況について、所属する係名や委員会名、クラブ名及び学校行事における役割の分担などの主な事実や、その生徒個人として比較的優れている点等、特別活動全体を通してみられる生徒の特徴など。

ウ 行動に関する所見

行動の状況について、その生徒個人として比較的優れている点など、学校生活全体にわたって、総合的に見た場合の生徒の特徴や、指導上特に留意する必要があると認められる生徒の健康状況の事項など。

エ 進路指導に関する事項

学校の教育活動全体を通じて行う進路指導に関し、生徒の将来の希望や学習状況、生徒の希望を実現するために行った指導・助言など。

オ 生徒の特徴・特技、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項

(7) 生徒の特徴や特技、趣味などのうち、生徒の長所を把握する上で特に重要なもの

(イ) 家庭や社会における奉仕活動等の善行、学校内外における表彰を受けた行為や活動及び教育課程外における活動のうち生徒の長所と判断されるもの

(ウ) 学力について標準化された検査結果等のうち、その後の指導に生かすことができる具体的な内容

(エ) 海外から帰国した事実など指導上特に必要な事項

カ 生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

当該学年の学習や特別活動及び行動等の状況において、当初と学年末とを比較し、進歩が著しい場合、その状況に関すること。

キ 交流及び共同学習

交流及び共同学習を実施している生徒について、その相手先の学校名や学級名、実施期間、実施した内容や成果等。

(8) 入学時の障害の状態

入学時の障害の状態について、障害の種類及び程度等を記入する。

(9) 出欠の記録

この欄には、以下の事項を記入する。

なお、該当すべき日数がない場合には、空白とせず0と記入する。

ア 授業日数

生徒の属する学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。学校保健安全法第20条の規定に基づき、臨時に、学校の全部又は学年の全部の休業を行うこととした日数は授業日数には含めない。

この授業日数は、原則として、同一学年のすべての生徒につき同日数とすることが適当である。ただし、転学又は退学等をした生徒については、転学のため学校を去った日又は退学等をした日までの授業日数を記入し、転入学又は編入学等をした生徒については、転入学又は編入学等をした日以後の授業日数を記入する。

なお、授業とは、学校において編成した教育課程を実施することであるから、例えば、夏季休業期間中における生徒の出校日等は、それが教育課程として実施されたものでない限りは授業日とはみなさない。

イ 出席停止・忌引等の日数

以下の日数を合算して記入する。

(ア) 学校教育法第35条による出席停止日数、学校保健安全法第19条及び学校保健安全法施行規則第18条、第19条による出席停止日数並びに感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第19条、第20条、第26条及び第46条による入院の場合の日数

(イ) 学校保健安全法第20条により、臨時に学年の中の一部の休業を行った場合の日数

(ウ) 忌引日数

(エ) 非常変災等生徒又は保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくてもよいと認めた日数

(オ) その他教育上特に必要な場合で、校長が出席しなくてもよいと認めた日数

ウ 出席しなければならない日数

授業日数から出席停止・忌引等の日数を差し引いた日数を記入する。

エ 欠席日数

出席しなければならない日数のうち病気又はその他の事故で生徒が欠席した日数を記入する。

オ 出席日数

(ア) 記入

出席しなければならない日数から欠席日数を差し引いた日数を記入する。

(イ) 出席扱いとすることができる場合

- a 学校の教育活動の一環として生徒が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合
- b 「不登校児童生徒への支援の在り方について(令和元年 10 月 25 日付け文科初第 698 号)」に沿って、別記 1 (義務教育段階の不登校児童生徒が学校外の公的機関や民間施設において相談・指導を受けている場合) 及び別記 2 (不登校児童生徒が自宅において I C T 等を活用した学習活動を行った場合) により、校長が出席扱いと認める場合

この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数並びに生徒が通所又は入所した学校外の施設名と所在市町名(県外の施設の場合は都道府県名)又は自宅において I C T 等を活用した学習活動によることを備考欄に記入する。

- c 「小・中学校等における病気療養児に対する同時双方向型授業配信を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について(通知)(平成 30 年 9 月 20 日付け 30 文科初第 837 号)」に沿って、病気療養児に対する教育の一層の充実を図るために同時双方向型授業配信を行った場合

この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数並びに病気療養中の授業配信によることを備考欄に記入する。

カ 備考

出席停止・忌引等の日数に関する特記事項、学校に登校していないが出席扱いとした事由、欠席理由の主なもの、遅刻、早退等の状況その他の出欠に関する特記事項、教員を派遣して教育を行った生徒についてはその旨等を記入する。

〔3〕〔知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校〕小学部及び中学部

小学部における指導に関する記録については、各教科の学習の記録、特別活動の記録、自立活動の記録、道徳科の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

中学部における指導に関する記録については、各教科の学習の記録、特別活動の記録、自立活動の記録、道徳科の記録、総合的な学習の時間の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

(1) 各教科の学習の記録

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す小学部及び中学部の各教科の目標、内容に照らし、付属資料 1 - 2 (P. 78~82) の各教科の評価の観点及びその趣旨を踏まえ、具体的に定めた指導内容、実現状況等を箇条書き等により文章で端的に記述する。

各教科等を合わせて指導を行った場合でも、具体的に定めた指導内容、実現状況等を各教科等ごとに文章で記述する。

(2) 特別の教科 道徳

「学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)(平成 28 年 7 月 29

日付け 28 文科初第 604 号) 」に基づき、学習活動における児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を個人内評価として文章で端的に記述する。

(3) 総合的な学習の時間の記録〔中学部〕

ア 学習活動

総合的な学習の時間に行った学習活動を簡潔な文言で示す。

イ 観点

中学校学習指導要領等に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて付属資料 3 (P.83) を参考に定める。

ウ 評価

アの学習活動及びイの観点を記入した上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などに、その特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。

(4) 特別活動の記録

小学校、中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部・中学部における特別活動の記録に関する考え方を参考としながら文章で端的に記述する。

(5) 自立活動の記録

個別の指導計画を踏まえ、以下の事項等を端的に記入する。

ア 指導目標、指導内容、指導の成果の概要に関すること

イ 障害の状態等に変化が見られた場合、その状況に関すること

ウ 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合、その検査結果に関すること

(6) 行動の記録

小学校、中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部・中学部における行動の記録に関する考え方を参考にしながら文章で端的に記述する。

(7) 総合所見及び指導上参考となる諸事項

児童生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下の事項等を文章で箇条書き等により端的に記述する。

記入に際しては、児童生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし、児童生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば端的に記入する。

ア 各教科や総合的な学習の時間〔中学部〕の学習に関する所見

各教科や総合的な学習の時間の学習について、総合的に見た場合の児童生徒の特徴や指導上特に留意すべき事項など。

学習指導要領に規定する重複障害者等に関する教育課程の取扱いにより指導上の配慮を行った場合には、必要に応じてその状況を端的に記述する。

イ 特別活動に関する事実及び所見

特別活動における児童生徒の活動の状況について、所属する係名や委員会名、クラブ名及び学校行事における役割の分担などの主な事実や、その児童生徒個人として比較的優れている点等、特別活動全体を通してみられる児童生徒の特徴など。

ウ 行動に関する所見

行動の状況について、その児童生徒個人として比較的優れている点など、学校生活全

体にわたって、総合的に見た場合の児童生徒の特徴や、指導上特に留意する必要があると認められる児童生徒の健康状況の事項など。

エ 進路指導に関する事項〔中学部〕

学校の教育活動全体を通じて行う進路指導に関し、生徒の将来の希望や生徒の学習状況、生徒の希望を実現するために行った指導・助言など。

オ 児童生徒の特徴・特技、部活動〔中学部〕、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項

(ア) 児童生徒の特徴や特技、趣味などのうち、児童生徒の長所を把握する上で特に重要なもの

(イ) 家庭や社会における奉仕活動等の善行、学校内外における表彰を受けた行為や活動及び教育課程外における活動のうち生徒の長所と判断されるもの

(ウ) 学力について標準化された検査結果等のうち、その後の指導に生かすことができる具体的な内容

(エ) 海外から帰国した事実など指導上特に必要な事項

カ 児童生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

当該学年の学習や特別活動及び行動等の状況において、当初と学年末とを比較し、進歩が著しい場合、その状況に関することなど。

キ 交流及び共同学習

交流及び共同学習を実施している児童生徒について、その相手先の学校名や学級名、実施期間、実施した内容や成果等。

(8) 入学時の障害の状態

入学時の障害の状態について、障害の種類及び程度等を記入する。

(9) 出欠の記録

この欄には、以下の事項を記入する。

なお、該当すべき日数がない場合には、空白とせず0と記入する。

ア 授業日数

児童生徒の属する学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。学校保健安全法第20条の規定に基づき、臨時に、学校の全部又は学年の全部の休業を行うこととした日数は授業日数には含めない。

この授業日数は、原則として、同一学年のすべての児童生徒につき同日数とすることが適当である。ただし、転学又は退学等をした児童生徒については、転学のため学校を去った日又は退学等をした日までの授業日数を記入し、転入学又は編入学等をした児童生徒については、転入学又は編入学等をした日以後の授業日数を記入する。

なお、授業とは、学校において編成した教育課程を実施することであるから、例えば、夏季休業期間中における児童生徒の离校日等は、それが教育課程として実施されたものでない限りは授業日とはみなさない。

イ 出席停止・忌引等の日数

以下の日数を合算して記入する。

(ア) 学校教育法第35条による出席停止日数、学校保健安全法第19条及び学校保健安全法施行規則第18条、第19条による出席停止日数並びに感染症の予防及び感染症の患者に

- 対する医療に関する法律第19条、第20条、第26条及び第46条による入院の場合の日数
- (イ) 学校保健安全法第20条により、臨時に学年の中の一部の休業を行った場合の日数
 - (ウ) 忌引日数
 - (エ) 非常変災等児童生徒又は保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくてもよいと認めた日数
 - (オ) その他教育上特に必要な場合で、校長が出席しなくてもよいと認めた日数

ウ 出席しなければならない日数

授業日数から出席停止・忌引等の日数を差し引いた日数を記入する。

エ 欠席日数

出席しなければならない日数のうち病気又はその他の事故で児童生徒が欠席した日数を記入する。

オ 出席日数

(ア) 記入

出席しなければならない日数から欠席日数を差し引いた日数を記入する。

(イ) 出席扱いとすることができる場合

- a 学校の教育活動の一環として児童生徒が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合
- b 「不登校児童生徒への支援の在り方について(令和元年10月25日付け文科初第698号)」に沿って、別記1(義務教育段階の不登校児童生徒が学校外の公的機関や民間施設において相談・指導を受けている場合)及び別記2(不登校児童生徒が自宅においてICT等を活用した学習活動を行った場合)により、校長が出席扱いと認める場合

この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数並びに児童生徒が通所又は入所した学校外の施設名と所在市町名(県外の施設の場合は都道府県名)又は自宅においてICT等を活用した学習活動によることを備考欄に記入する。

- c 「小・中学校等における病気療養児に対する同時双方向型授業配信を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について(通知)(平成30年9月20日付け30文科初第837号)」に沿って、病気療養児に対する教育の一層の充実を図るために同時双方向型授業配信を行った場合

この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数並びに病気療養中の授業配信によることを備考欄に記入する。

カ 備考

出席停止・忌引等の日数に関する特記事項、学校に登校していないが出席扱いとした事由、欠席理由の主なもの、遅刻、早退等の状況その他の出欠に関する特記事項、教員を派遣して教育を行った児童生徒についてはその旨等を記入する。

<指導要録様式>

○ 用紙の規格等

- ・ 日本産業規格 A 4 判縦型とし、紙質は 70 kg 程度の上質紙とする。
- ・ 小学部においては令和 2 年度から、中学部においては令和 3 年度から使用する。

【別紙 1】

[視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校] 小学部児童指導要録

様式 1 (学籍に関する記録)

様式 2 (指導に関する記録)

【別紙 2】

[視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校] 中学部生徒指導要録

様式 1 (学籍に関する記録)

様式 2 (指導に関する記録)

【別紙 3】

[知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校] 小学部児童指導要録

様式 1 (学籍に関する記録)

様式 2 (指導に関する記録)

【別紙 4】

[知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校] 中学部生徒指導要録

様式 1 (学籍に関する記録)

様式 2 (指導に関する記録)

小 学 部 児 童 指 導 要 録

様式 1 (学籍に関する記録)

区分	学年	1	2	3	4	5	6
学 級							
整理番号							

学 籍 の 記 録							
児 童	ふりがな			性 別	入学・編入学等	年 月 日	第 1 学年 入学
	氏 名					第 学年編入学	
	生年月日	年 月 日生		転 入 学	年 月 日	第 学年転入学	
	現住所						
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(年 月 日)	(年 月 日)	
	氏 名				卒 業	年 月 日	
	現住所			進 学 先			
入学前の経歴							
学 校 名 及 び 所 在 地 <small>(分校名・所在地等)</small>							
年 度		年 度		年 度		年 度	
区分	学年	1	2	3			
校長氏名印							
学級担任者 氏 名 印							
年 度		年 度		年 度		年 度	
区分	学年	4	5	6			
校長氏名印							
学級担任者 氏 名 印							

様式2 (指導に関する記録)

児童氏名		学 校 名		区分	学年	1	2	3	4	5	6
				学 級							
				整理番号							

各 教 科 の 学 習 の 記 録								特 別 の 教 科 道 徳				
教科	観 点	学 年	1	2	3	4	5	6	学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子		
			国 語	知識・技能								
思考・判断・表現												
主体的に学習に取り組む態度									2			
評定	/	/										
社 会	知識・技能		/	/					3			
	思考・判断・表現		/	/								
	主体的に学習に取り組む態度		/	/					4			
	評定	/	/									
算 数	知識・技能								5			
	思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								6			
	評定	/	/									
理 科	知識・技能		/	/					3			
	思考・判断・表現		/	/								
	主体的に学習に取り組む態度		/	/					4			
	評定	/	/									
生 活	知識・技能			/	/	/	/	/	4			
	思考・判断・表現			/	/	/	/	/				
	主体的に学習に取り組む態度			/	/	/	/	/	5			
	評定	/	/	/	/	/	/	/				
音 楽	知識・技能								3			
	思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								4			
	評定	/	/									
図 画 工 作	知識・技能								4			
	思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								5			
	評定	/	/									
家 庭	知識・技能		/	/	/	/	/	/	6			
	思考・判断・表現		/	/	/	/	/	/				
	主体的に学習に取り組む態度		/	/	/	/	/	/	6			
	評定	/	/	/	/	/	/	/				
体 育	知識・技能								3			
	思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								4			
	評定	/	/									
外 国 語	知識・技能		/	/	/	/	/	/	5			
	思考・判断・表現		/	/	/	/	/	/				
	主体的に学習に取り組む態度		/	/	/	/	/	/	6			
	評定	/	/	/	/	/	/	/				

外国語活動の記録			
学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3			
4			

総合的な学習の時間の記録			
学年	学 習 活 動	観 点	評 価
3			
4			
5			
6			

特別活動の記録										
内 容	観 点	学 年	1	2	3	4	5	6		
			学級活動							
児童会活動										
クラブ活動										
学校行事										

児 童 氏 名

行 動 の 記 録															
項 目	学 年	1						項 目	学 年	1					
		1	2	3	4	5	6			1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
自主・自律								勤労・奉仕							
責任感								公正・公平							
創意工夫								公共心・公德心							

自 立 活 動 の 記 録								入 学 時 の 障 害 の 状 態													
第1学年							第4学年														
第2学年							第5学年														
第3学年							第6学年														

総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項																			
第1学年							第4学年												
第2学年							第5学年												
第3学年							第6学年												

出 欠 の 記 録													
区分 学年	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考							
						1							
2													
3													
4													
5													
6													

中 学 部 生 徒 指 導 要 録

様式1（学籍に関する記録）

区分	学年	1	2	3
学 級				
整理番号				

学 籍 の 記 録					
生 徒	ふりがな			性 別	
	氏 名				
	生年月日	年	月	日生	
	現住所				
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(年 月 日)
	氏 名				年 月 日
	現住所			卒業	年 月 日
入学前の経歴				進学先 就職先等	
学 校 名 及 び 所 在 地 <small>(分校名・所在地等)</small>					
年 度	年度		年度		年度
区分 / 学年	1	2		3	
校長氏名印					
学級担任者 氏 名 印					

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名		学校名			区分	学年	1	2	3						
					学級										
					整理番号										
各教科の学習の記録															
教科	観点	学年			1	2	3	教科	観点	学年			1	2	3
国語	知識・技能								知識・技能						
	思考・判断・表現								思考・判断・表現						
	主体的に学習に取り組む態度								主体的に学習に取り組む態度						
	評定								評定						
社会	知識・技能							特別の教科道徳							
	思考・判断・表現							学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子						
	主体的に学習に取り組む態度							1							
	評定							2							
数学	知識・技能							3							
	思考・判断・表現							総合的な学習の時間の記録							
	主体的に学習に取り組む態度							学年	学習活動	観点	評価				
	評定							1							
理科	知識・技能							2							
	思考・判断・表現							3							
	主体的に学習に取り組む態度							特別活動の記録							
	評定							内容	観点	学年	1	2	3		
音楽	知識・技能							学級活動							
	思考・判断・表現							生徒会活動							
	主体的に学習に取り組む態度							学校行事							
	評定														
美術	知識・技能														
	思考・判断・表現														
	主体的に学習に取り組む態度														
	評定														
保健体育	知識・技能														
	思考・判断・表現														
	主体的に学習に取り組む態度														
	評定														
技術・家庭	知識・技能														
	思考・判断・表現														
	主体的に学習に取り組む態度														
	評定														
外国語	知識・技能														
	思考・判断・表現														
	主体的に学習に取り組む態度														
	評定														

生徒氏名

行 動 の 記 録									
項 目	学 年	1	2	3	項 目	学 年	1	2	3
基本的な生活習慣					思いやり・協力				
健康・体力の向上					生命尊重・自然愛護				
自主・自律					勤労・奉仕				
責任感					公正・公平				
創意工夫					公共心・公德心				

自 立 活 動 の 記 録		入学時の障害の状態
第1学年		
第2学年		
第3学年		

総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項	
第1学年	
第2学年	
第3学年	

出 欠 の 記 録						
区分 学年	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						
2						
3						

小学部児童指導要録

様式1 (学籍に関する記録)

区分	学年	1	2	3	4	5	6
学級							
整理番号							

学 籍 の 記 録							
児 童	ふりがな			性 別	入学・編入学等	年 月 日	第 1 学年 入学
	氏 名					第 学年編入学	
	生年月日	年 月 日生		転 入 学	年 月 日	第 学年転入学	
	現住所						
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(年 月 日)	(年 月 日)	
	氏 名				卒 業	年 月 日	
	現住所			進 学 先			
入学前の経歴							
学 校 名 及 び 所 在 地 <small>(分校名・所在地等)</small>							
年 度		年 度		年 度		年 度	
区分	学年	1		2		3	
校長氏名印							
学級担任者 氏 名 印							
年 度		年 度		年 度		年 度	
区分	学年	4		5		6	
校長氏名印							
学級担任者 氏 名 印							

様式2 (指導に関する記録)

児童氏名	学校名	区分	学年	1	2	3	4	5	6
		学級							
		整理番号							

各教科・特別活動・自立活動の記録

学年 教科等	1	2	3	4	5	6
生活						
国語						
算数						
音楽						
図画工作						
体育						
特別活動						
自立活動						

児 童 氏 名

特 別 の 教 科 道 徳

学 習 状 況 及 び 道 徳 性 に 係 る 成 長 の 様 子

第1学年		第4学年	
第2学年		第5学年	
第3学年		第6学年	

行 動 の 記 録

				入学時の障害の状態
第1学年		第4学年		
第2学年		第5学年		
第3学年		第6学年		

総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項

第1学年		第4学年	
第2学年		第5学年	
第3学年		第6学年	

出 欠 の 記 録

区分 学年	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						
2						
3						
4						
5						
6						

中 学 部 生 徒 指 導 要 録

様式1 (学籍に関する記録)

区分	学年	1	2	3
学 級				
整理番号				

学 籍 の 記 録					
生 徒	ふりがな			性 別	
	氏 名				
	生年月日	年	月	日生	
	現住所				
保 護 者	ふりがな			(年 月 日) 日	
	氏 名				
	現住所			卒 業	年 月 日
入学前の経歴				進 学 先 就 職 先 等	
学 校 名 及 び 所 在 地 <small>(分校名・所在地等)</small>					
年 度	年度		年度		年度
区分 / 学年	1	2		3	
校長氏名印					
学級担任者 氏 名 印					

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名	学校名	区分	学年	1	2	3
		学級				
		整理番号				

各教科・特別活動・自立活動の記録						
学年	1		2		3	
教科等						
国語						
社会						
数学						
理科						
音楽						
美術						
保健体育						
職業・家庭						
その他						
特別活動						
自立活動						

生徒氏名

特 別 の 教 科 道 徳

学 習 状 況 及 び 道 徳 性 に 係 る 成 長 の 様 子

第1学年	
第2学年	
第3学年	

総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 記 録

学年	学 習 活 動	観 点	評 価	
1				
2				
3				

入学時の障害の状態

行 動 の 記 録

第1学年	
第2学年	
第3学年	

総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項

第1学年	
第2学年	
第3学年	

出 欠 の 記 録

区分 学年	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						
2						
3						

<指導要録記入例>

記入例 1 特別支援学校 小学部児童指導要録 様式 1 (学籍に関する記録)

小学部児童指導要録

様式 1 (学籍に関する記録)

区分	学年	1	2	3	4	6
学級		1	2	2	2	2
整理番号		3	3	3	4	4

各学年の学級名(数字を用いることが望ましい)及び出席番号等の児童番号を記入する。

原則として学齢簿の記載に基づき、学年当初及び異動時に記入する。

[入学・編入学]
入学の場合には、児童が第1学年に入学した年月日(原則として4月1日)を記入し、「第1学年編入学」の文字は黒又は青の一本線で削除する。

令和〇年4月1日 第1学年 入学
第一学年編入学

[転入学]
転入学の場合には、転入学年月日、転入学年、前に在学していた学校名、所在地及び転入学の事由等を記入する。

年月日 第 学年転入学

[転学・退学]
転学の場合には、上部括弧内に転学のために学校を去った年月日、下部の年月日欄に転学先の学校が受け入れた年月日の前日を記入し、その下の余白に転学先の学校名及び転入学年、所在地、その事由等を記入する。

転学・退学等 (年月日)

[卒業]
校長が卒業を認定した年月日(原則として3月31日)を記入する。

卒業 令和〇年3月31日

[入学前の経歴]
第1学年に入学するまでの教育又は保育関係の略歴を記入する。

入学前の経歴 〇〇幼稚園在園
(令和〇年4月〇日~令和〇年3月〇日)

[進学先]
進学先の学校名及び所在地を記入する。

進学先 栃木県立〇〇特別支援学校中学部
栃木県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号

[学校名及び所在地]
学校名は、「栃木県立〇〇特別支援学校」のように記入し、所在地は、「栃木県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号」のように記入する。

学校名及び所在地 栃木県立〇〇特別支援学校
栃木県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号

年度	令和〇年度	令和〇年度	令和〇年度	
区分	学年	1	2	3
校長氏名印	[校長氏名印・学級担任者氏名印] 学年当初(原則として4月1日)又は児童が転入学等をしたときに、法令上指導要録作成の義務を負う校長の氏名と、その記入を担当する学級担任者を欄の上部に記入する。	都賀 鮎子 印	都賀 鮎子 印	都賀 鮎子 印
学級担任者氏名印	指導要録の作成が完結した学年末又は転学・退学等の際、記入について責任を有する校長及び学級担任者(現任者)が押印(認印)する。	二宮 櫻子 岩舟 春夫 (10.1~3.31) 印	足尾 夏樹 氏名 夏樹 (5.1~7.31)(12.1~1.31) 印	
年度	令和〇年度	同一年度内に校長又は学級担任者が代わった場合には、その都度後任者の氏名をその下方に併記し、代わった期間を括弧書きする。		同一教員が連続しない複数の期間担任する場合、氏名をその都度記入せず、担任した期間を複数回括弧書きする。
区分	学年	4		
校長氏名印		都賀 鮎子 印	今市 杉子 印	今市 杉子 印
学級担任者氏名印		足尾 夏樹 印	田沼 茜 印 (産・補) 栗野 秋絵 (4.1~6.30)	産前産後の休暇中における臨時的任用の教員が担当した場合、その氏名を記入する。この場合には、その氏名の最初に(産・補)のように記入し、その担任期間も併記しておく。

記入例2 特別支援学校 中学部生徒指導要録 様式1 (学籍に関する記録)

中学部生徒指導要録

様式1 (学籍に関する記録)

原則として学齢簿の記載に基づき、学年当初及び異動時に記入する。

各学年の学級名(数字を用いることが望ましい)及び出席番号等の生徒番号を記入する。

区分	学年	1	2	3
学級		2	2	2
整理番号		2	3	2

学籍の記録						
生徒	ふりがな	とちぎ はなこ	性別	女	入学・編入学等	<p>【入学・編入学】 入学の場合には、生徒が第1学年に入学した年月日(原則として4月1日)を記入し、「第1学年編入学」の文字は黒又は青の一本線で削除する。</p> <p>令和〇年4月1日 第1学年 入学 第1学年編入学</p>
	氏名	栃木 はな子				
	生年月日	平成〇年〇月〇日生	転入学	<p>【転入学】 転入学の場合には、転入学年月日、転入学年、前に在学していた学校名、所在地及び転入学の事由等を記入する。</p> <p>年 月 日 第 学年転入学</p>		
保護者	ふりがな	とちぎ いちろう	転学・退学等	<p>【転学・退学】 転学の場合には、上部括弧内に転学のために学校を去った年月日、下部の年月日欄に転学先の学校が受け入れた年月日の前日を記入し、その下の余白に転学先の学校名及び転入学年、所在地、その事由等を記入する。</p> <p>年 月 日 年 月 日</p>	卒業	<p>【卒業】 校長が卒業を認定した年月日(原則として3月31日)を記入する。</p> <p>令和〇年3月31日</p>
氏名	栃木 一郎	現住所	<p>【現住所】 生徒の現住所と同一の場合には、「生徒の欄に同じ」と略記する。</p> <p>生徒の欄に同じ</p>			
入学前の経歴	入学前の経歴	<p>【入学前の経歴】 第1学年に入学するまでの教育関係の略歴を記入する。</p> <p>栃木県立〇〇特別支援学校小学部卒業</p>	進学先 就職先等	<p>【進学先・就職先等】 進学の場合には、進学先の学校名及び所在地を記入する。就職の場合には、就職先の事業所名及び所在地を記入する。障害者支援施設に入所・通所した者については、事業所名及び所在地、利用状況(入所又は通所)を記入する。</p> <p>栃木県立〇〇特別支援学校高等部 栃木県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号</p>		
学校名及び所在地	<p>【学校名及び所在地】 学校名は、「栃木県立〇〇特別支援学校」のように記入し、所在地は、「栃木県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号」のように記入する。</p> <p>栃木県立〇〇特別支援学校 栃木県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号</p>	年度	令和〇年度	令和〇年度	令和〇年度	
校長氏名印	喜連川 蓮 印	区分	学年	1	2	3
学級担任者氏名印	塩原 冬弥 印	校長氏名印・学級担任者氏名印	記入例1 (P.45) 参照	馬頭 さつみ 印	馬頭 さつみ 印	石橋 弥生 印

記入例3 [視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校]
 小学部児童指導要録 様式2 (指導に関する記録)

様式2 (指導に関する記録)

児童氏名		学校名					区分	学年	1	2	3	4	5	6
葛生 夢人		栃木県立〇〇特別支援学校					学級	1	1	1				
							整理番号	3	3	3				

各教科の学習の記録							特別の教科 道徳								
教科	観点	学年	1	2	3	4	5	学年	学習状況	道徳性に係る成長の様子					
国語	知識・技能							1	【特別の教科 道徳】 児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、特に顕著と認められる具体的な状況等について、個人内評価として、文章で端的に記述する。						
	思考・判断・表現							2							
	主体的に学習に取り組む態度		B	B	C										
	評定				2										
社会	知識・技能				A			3	【外国語活動の記録】 (1) 観点 小学校学習指導要領等に示す外国語活動の目標を踏まえ、付属資料2-1 (P.83)を参考に設定する。 (2) 評価 評価の観点を記入した上で、それらの観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入するなど、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。						
	思考・判断・表現				B			4							
	主体的に学習に取り組む態度							5							
	評定							6							
算数	知識・技能								外国語活動の記録 学年 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度						
	思考・判断・表現							3							
	主体的に学習に取り組む態度							4							
	評定							4							
理科	知識・技能				A				総合的な学習の時間の記録 学年 学習活動の観点 評価						
	思考・判断・表現				B			3							
	主体的に学習に取り組む態度				B			4							
	評定				2										
生活	知識・技能		A	A					【各教科の学習の記録】 (2) 評定 第3学年以上の各教科の学習の状況について、小学校学習指導要領等の各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し記入する。						
	思考・判断・表現							3							
	主体的に学習に取り組む態度							4							
	評定														
音楽	知識・技能		A	A	A				【総合的な学習の時間】 (1) 観点 小学校学習指導要領等に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて付属資料3 (P.83)を参考に定める。 (2) 評価 学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、児童の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。						
	思考・判断・表現		B	B	B			3							
	主体的に学習に取り組む態度		A	B	B			4							
	評定				2										
図画工作	知識・技能		A	A	A				【特別活動の記録】 (1) 観点 小学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において付属資料4 (P.84)を参考に定める。なお、クラブ活動については、実施しなかった学年の欄に斜線を引くこと。 (2) 評価 各学校が自ら定めた特別活動全体に係わる評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点到照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。						
	思考・判断・表現		B	B	B			3							
	主体的に学習に取り組む態度		B	B	A			4							
	評定														
家庭	知識・技能								特別活動の記録 内容 観点 学年 1 2 3 4 5 6						
	思考・判断・表現							3							
	主体的に学習に取り組む態度							4							
	評定														
体育	知識・技能		B	B	B				学級活動 ・よりよい生活を築くための知識・技能 ・集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 ・主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度						
	思考・判断・表現		B	B	B			1							
	主体的に学習に取り組む態度		B	B	B			2							
	評定				2										
外国語	知識・技能								児童会活動 ・よりよい生活を築くための知識・技能 ・集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 ・主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度						
	思考・判断・表現							1							
	主体的に学習に取り組む態度							2							
	評定														
外国語	知識・技能								クラブ活動 ・よりよい生活を築くための知識・技能 ・集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 ・主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度						
	思考・判断・表現							1							
	主体的に学習に取り組む態度							2							
	評定														
外国語	知識・技能								学校行事 ・よりよい生活を築くための知識・技能 ・集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 ・主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度						
	思考・判断・表現							1							
	主体的に学習に取り組む態度							2							
	評定														

児童氏名
葛生 夢人

行動の記録													
項目	学年	1	2	3	4	項目	学年	1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣													
健康・体力の向上													
自主・自律													
責任感													
創意工夫													

【行動の記録】
(1) 項目
 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童の行動について、付属資料5 (P.85・86) 等を参考にして項目を適切に設定する。
(2) 評価
 各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

自立活動の記録						入学時の障害の状態							
第1学年					第4学年								
第2学年													
第3学年					第6学年								

【自立活動の記録】
 個別の指導計画を踏まえ、以下の事項等を端的に記入する。
 (1) 指導の目標、指導内容、指導の成果の概要に関すること
 (2) 障害の状態等に変化が見られた場合、その状況に関すること
 (3) 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合、その検査結果に関すること

【入学時の障害の状態】
 入学時の障害の種類及び程度等を記入する。

総合所見及び指導上参考となる諸事項													
第1学年													
第2学年													
第3学年													

【総合所見及び指導上参考となる諸事項】
 児童の成長の状況を総合的に捉えるため、以下の事項等を文章で箇条書き等により記述する。
 記入に際しては、児童の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし、児童の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば端的に記入する。
 (1) 各教科や外国語活動、総合的な学習の時間の学習に関する所見
 (2) 特別活動に関する事実及び所見
 (3) 行動に関する所見
 (4) 児童の特徴、特技、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項
 (5) 児童の成長の状況に係わる総合的な所見
 (6) 交流及び共同学習

【出欠の記録】
(1) 授業日数
 児童の属する学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。臨時に、学校の全部又は学年の全部の休業を行うこととした日数は授業日数には含めない。
 この授業日数は、原則として、同一学年すべての児童につき同日数とすることが適当である。ただし、転学又は退学等をした児童については、転学のため学校を去った日又は退学をした日までの授業日数を記入し、転入学又は編入学等をした児童については、転入学又は編入学等をした日以後の授業日数を記入する。
(2) 出席停止・忌引等の日数
 出席停止、忌引等の日数を合算して記入する。
(3) 出席しなければならない日数
 授業日数から出席停止・忌引き等の日数を差し引いた日数を記入する。
(4) 欠席日数
 出席しなければならない日数のうち、病気又はその他の事故で児童が欠席した日数を記入する。
(5) 出席日数
 出席しなければならない日数から欠席日数を差し引いた日数を記入する。なお、学校の教育活動の一環として児童が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合等には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。

出欠の記録							備考
区分	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならない日数	欠席日数	出席日数		
1	175	0	175	7	168	病欠5(かぜ、体調不良) 事故欠2(家事都合)	
2	175	0	175	5	170	病欠4(かぜ、体調不良) 事故欠1(家事都合)	
3	105	0	105	6	99	教員を派遣しての指導 病欠4(かぜ) 事故欠2(家事都合)	
4							
5							
6							

教員等を派遣して教育を行った場合はその旨等を記入する。

記入例4 [視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校]
 中学部生徒指導要録 様式2 (指導に関する記録)

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名	学校名	区分	学年	1	2	3
湯津上 光	栃木県立〇〇特別支援学校	学 級	2	2		
		整理番号	2	3		

各教科の学習の記録												
教科	観 点	学 年			教科	観 点	学 年					
		1	2	3			1	2	3			
国語	知識・技能	[各教科の学習の記録] 観点別学習状況及び評定について記入する。										
	思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度				A	B			主体的に学習に取り組む態度			
	評定				4	4			評定			
社会	知識・技能	B	A		特別の教科 道徳							
	思考・判断・表現				学年	学習活動	点	評 価				
	主体的に学習に取り組む態度				1							
	評定				[特別の教科 道徳] 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、特に顕著と認められる具体的な状況等について、個人内評価として、文章で端的に記述する。							
数学	知識・技能	(1) 観点別学習状況 中学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、A、B、Cの記号により記入する。 また、特に必要があれば、観点を追加して記入する。 各教科の評価の観点及びその趣旨並びにそれらを学年別に示したものは、付属資料1-1 (P.58~77) のとおりである。										
	思考・判断・表現							2				
	主体的に学習に取り組む態度							3				
	評定											
理科	知識・技能	B	B		総合的な学習の時間の記録							
	思考・判断・表現	B	B		学年	学 習 活 動	点	評 価				
	主体的に学習に取り組む態度	B	B		1							
	評定	3	3		[総合的な学習の時間] (1) 観点 中学校学習指導要領等に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて付属資料3 (P.83) を参考に定める。 (2) 評価 学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。							
音楽	知識・技能				(2) 評価 学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。							
	思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度											
	評定											
美術	知識・技能	B	B		(1) 観点 中学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において付属資料4 (P.84) を参考に定める。 (2) 評価 各学校が自ら定めた特別活動全体に係わる評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。							
	思考・判断・表現	B	B									
	主体的に学習に取り組む態度	B	B									
	評定	3	3									
保健体育	知識・技能	A	B		特別活動の記録							
	思考・判断・表現	B	B									
	主体的に学習に取り組む態度	A	A									
	評定	4	4									
技術・家庭	知識・技能	B	B		内 容	観 点	学 年	1	2	3		
	思考・判断・表現	B	B		学級活動	・よりよい生活を築くための知識・技能 ・集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 ・主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度		○				
	主体的に学習に取り組む態度	B	B		生徒会活動				○			
	評定	3	3		学校行事							
外国語	知識・技能	A	B									
	思考・判断・表現	B	A									
	主体的に学習に取り組む態度	A	B									
	評定	4	4									

生徒氏名
湯津上 光

行 動 の 記 録									
項 目	学 年	1	2	項 目	学 年	1	2	3	
基本的な生活習慣				【行動の記録】 (1) 項目 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる生徒の行動について、付属資料5 (P.86) 等を参考にして項目を適切に設定する。 (2) 評価 各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入する。					
健康・体力の向上									
自主・自律									
責任感									
創意工夫									

自 立 活 動 の 記 録				入学時の障害の状態	
第1学年	評価事例1 (P.55・56) 参照 【自立活動の記録】 個別の指導計画を踏まえ、以下の事項等を端的に記入する。 (1) 指導の目標、指導内容、指導の成果の概要に関すること (2) 障害の状態等に変化が見られた場合、その状況に関すること (3) 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合、その検査結果に関すること			【入学時の障害の状態】 入学時の障害の種類及び程度等を記入する。	
第2学年					
第3学年					

総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項			
第1学年	評価事例2(P.57)参照 【総合所見及び指導上参考となる諸事項】 生徒の成長の状況を総合的に捉えるため、下記の事項などを文章で箇条書き等により端的に記述する。記入に際しては、生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし、生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。 (1) 各教科や総合的な学習の時間の学習に関する所見 (2) 特別活動に関する事実及び所見 (3) 行動に関する所見 (4) 進路指導に関する事項 (5) 生徒の特徴、特技、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項 (6) 生徒の成長の状況に係わる総合的な所見 (7) 交流及び共同学習		
第2学年			
第3学年			

出 欠 の 記 録						
区分	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならぬ日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						【出欠の記録】 記入例3 (P.48) 参照
2						
3						

記入例5 【知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校】小学部児童指導要録 様式2（指導に関する記録）

様式2（指導に関する記録）

児童氏名	学校名	区分	学年	1	2	3	4	5	6
大平 希望	栃木県立〇〇特別支援学校	学級	2						
		整理番号	5						

各教科・特別活動・自立活動の記録									
学年	1	2	3	4	5	6			
教科等									
生活	<p>【各教科の学習の記録】 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す小学部の各教科の目標、内容に照らし、付属資料1-2（P.78~82）の各教科の評価の観点及びその趣旨を踏まえ、具体的に定めた指導内容、実現状況等を箇条書き等により文章で端的に記述する。 各教科等を合わせて指導を行った場合でも、具体的に定めた指導内容、実現状況等を各教科ごとに文章で記述する。</p>								
国語									
算数									
音楽									
図画工作									
体育									
特別活動	<p>【特別活動の記録】 特別活動においては、小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における特別活動の記録に関する考え方を参考にしながら文章で端的に記述する。</p>								
自立活動	<p>評価事例1（P.55・56）参照</p> <p>【自立活動の記録】 個別の指導計画を踏まえ、以下の事項等を端的に記入する。 (1) 指導の目標、指導内容、指導の成果の概要に関すること (2) 障害の状態等に変化が見られた場合、その状況に関すること (3) 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合、その検査結果に関すること</p>								

児童氏名
大平 希望

特別の教科 道徳						
学習状況及び道徳性に係る成長の様子						
第1学年	<p>【特別の教科 道徳】 児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、特に顕著と認められる具体的な状況等について、個人内評価として、文章で端的に記述する。</p>				第1学年	
第2学年					第5学年	
第3学年					第6学年	
行動の記録					入学時の障害の状態	
第1学年	<p>【行動の記録】 小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における行動の記録に関する考え方を参考にしながら文章で端的に記述する。</p>				<p>【入学時の障害の状態】 入学時の障害の種類及び程度等を記入する。</p>	
第2学年						
第3学年						
総合所見及び指導上参考となる諸事項						
第1学年	<p>評価事例2 (P.57) 参照</p> <p>【総合所見及び指導上参考となる諸事項】 児童の成長の状況を総合的に捉えるため、以下の事項等を文章で箇条書き等により記述する。記入に際しては、児童の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし、児童の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば端的に記入する。</p> <p>(1) 各教科の学習に関する所見 (2) 特別活動に関する事実及び所見 (3) 行動に関する所見 (4) 児童の特徴・特技、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項 (5) 児童の成長の状況に係わる総合的な所見 (6) 交流及び共同学習</p>				第1学年	
第2学年						
第3学年					第6学年	
出欠の記録						
区分 学年	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備考
1						<p>【出欠の記録】 記入例3 (P.48) 参照</p>
2						
3						
4						
5						
6						

記入例6 [知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校] 中学部生徒指導要録 様式2 (指導に関する記録)

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名	学校名	区分	学年	1	2	3
上河内 未来	栃木県立〇〇特別支援学校	学級	1			
		整理番号	3			

各教科・特別活動・自立活動の記録						
学年	1	2	3			
国語	<p>【各教科の学習の記録】 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す中学部の各教科の目標、内容に照らし、付属資料1-2 (P.78~82) の各教科の評価の観点及びその趣旨を踏まえ、具体的に定めた指導内容、実現状況等を箇条書き等により文章で端的に記述する。 各教科等を合わせて指導を行った場合でも、具体的に定めた指導内容、実現状況等を各教科等ごとに文章で記述する。</p>					
社会						
数学						
理科						
音楽						
美術						
保健体育						
職業・家庭						
その他						
特別活動						<p>【特別活動の記録】 特別活動においては、中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）中学部における特別活動の記録に関する考え方を参考にしながら文章で端的に記述する。</p> <p>評価事例1 (P.55・56) 参照</p>
自立活動	<p>【自立活動の記録】 個別の指導計画を踏まえ、以下の事項等を端的に記入する。 (1) 指導の目標、指導内容、指導の成果の概要に関すること (2) 障害の状態等に変化が見られた場合、その状況に関すること (3) 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合、その検査結果に関すること</p>					

生徒氏名
上河内 未来

特別の教科道徳						
学習状況及び道徳性に係る成長の様子						
第1学年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【特別の教科 道徳】 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、特に顕著と認められる具体的な状況等について、個人内評価として、文章で端的に記述する。</p> </div>					
第2学年						
第3学年						
総合的な学習の時間の記録					入学時の障害の状態	
学年	学習活動	点	評価		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【入学時の障害の状態】 入学時の障害の種類及び程度等を記入する。</p> </div>	
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【総合的な学習の時間】 (1) 観点 中学校学習指導要領等に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて付属資料3 (P.83)を参考に定める。 (2) 評価 学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。</p> </div>					
2						
3						
行動の記録						
第1学年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【行動の記録】 中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）中学部における行動の記録に関する考え方を参考にしながら文章で端的に記述する。</p> </div>					
第2学年						
第3学年						
総合所見及び指導上参考となる諸事項						
第1学年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価事例2 (P.57) 参照</p> <p>【総合所見及び指導上参考となる諸事項】 生徒の成長の状況を総合的に捉えるため、下記の事項などを文章で箇条書き等により端的に記述する。記入に際しては、生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし、生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。 (1) 各教科や総合的な学習の時間の学習に関する所見 (2) 特別活動に関する事実及び所見 (3) 行動に関する所見 (4) 進路指導に関する事項 (5) 生徒の特徴・特技、部活動、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項 (6) 生徒の成長の状況に係わる総合的な所見 (7) 交流及び共同学習</p> </div>					
第2学年						
第3学年						
出欠の記録						
区分	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならぬ日数	欠席日数	出席日数	備考
学年						
1						<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【出欠の記録】 記入例3 (P.48) 参照</p> </div>
2						
3						

<評価事例>

〔評価事例を活用する際の留意点〕

以下の事例は、自立活動の記録と総合所見及び指導上参考となる諸事項について、本県の特別支援学校における実際の評価例に基づき、参考例を示したものである。指導に関する記録を指導要録に記入する際は、例文をそのまま使用するのではなく、児童生徒一人一人の障害の状況等、各学校の指導の実際に即し、創意工夫を加えて評価をして記入することが大切である。

評価事例 1 自立活動の記録

<p>健康の保持</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の病気について理解を深め、適切な生活管理ができるよう、映像資料を用いた学習に取り組んだ。疲労をためないことや定期的な服薬の大切さを理解し、生活を改善することができた。 ・保有する視機能を維持・管理できるよう、移動中の安全確保について意識の向上を図った。転倒や頭部への衝撃を避けるための安全な歩行を心掛けることができた。 ・健康状態の維持・改善に向けて、運動への意欲を向上できるよう、朝の体力作りとしてランニングに取り組んだ。走るペースや周数を自分で設定して意欲的に走るなど、運動習慣への意識が高まった。
<p>心理的な安定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入院期間中に安定した気持ちで生活できるよう、自分の思いを担当との交換日記に表現する活動に取り組んだ。日記の中で悩みや不安を表現できるようになり、言動が前向きになってきた。 ・日々の日課と異なる学校行事に安心して参加できるよう、予定や準備物等を自分で確認する活動を行った。見通しをもって学校行事へ参加することができるようになってきた。 ・自身の聞こえにくさによる新しい環境への不安を和らげるよう、対処の仕方を教師と一緒に考えた。事前に情報を得るとともに、メモを携帯し、困ったときは筆談で尋ねればよいことが分かることで、安心して新しい活動に参加することができた。
<p>人間関係の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他者からの働き掛けを受け止め、応じることができるよう、好きな音楽を題材にして手遊びに取り組んだ。活動を継続する中で笑顔が増え、教師の手に触れて自分から活動を要求する様子が見られるようになった。 ・自分でできることや、援助があればできることを理解し行動できるよう、車椅子での移動場面を通して考える機会をもった。段差があるところでは、自分から教師に声を掛け、援助を求めることができた。 ・ルールを守り友達と仲良く遊ぶことができるよう、大好きなゲームに取り組みながら、仲良く遊ぶためにはどうしたらよいかを考えた。友達と一緒にゲームのルールを決めることで、自分から守ろうとする意欲が高まり、仲良く遊ぶことができた。
<p>環境の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保有聴力だけでなく、視覚を活用して情報収集できるよう、指文字の学習に取り組んだ。必要に応じて指文字を活用することができるようになり、確実なコミュニケーションにつなげることができた。 ・聴覚や触覚などの諸感覚を活用しながら白杖を用いて歩く学習に取り組んだ。白杖や足下、周囲の音などの情報を手掛かりに目的地まで歩行することができた。 ・自分の身体を基点とした位置関係を理解するため、ダンスを通して前後、左右についての学習に取り組んだ。言葉での指示を聞いて、その方向へ動くことができるようになった。

<p>身体の動き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筋緊張の緩和を図るために、好きな揺れを感じることでできるロールクッションを使った活動に取り組んだ。ロールクッションの軽い揺れを感じ、手足をリラックスすることができた。 ・姿勢を保持する力を向上できるよう、あぐら座位での学習に取り組んだ。股関節を十分に緩めることで姿勢が安定すると、大好きな絵本を見ながら5分程度、片手を付いて姿勢を保持することができた。 ・手指の巧緻性を高められるよう、直径1cm程度のビーズをつまんでひもに通す学習に取り組んだ。親指と人さし指でビーズをつまむことができるようになり、繰り返しひもに通すことができた。
<p>コミュニケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的な発声が増えるよう、好きな歌を教師と一緒に聴いたり歌ったりする活動に取り組んだ。〇〇の歌の決まったフレーズで「あー」と声を出すようになった。 ・身近な人に自分の意思を伝えることができるよう、写真カードを用いてやりとりするようになった。玩具の写真カードを教師に見せることで、遊びたい玩具を伝えることができるようになってきた。 ・他者に自分の考えを伝える力を向上できるよう、分かりやすいスピーチ原稿について考える学習に取り組んだ。聞き手に合わせた言葉や文型などの大切さに気付くことができ、日常生活においても自分の考えがより伝わるよう言葉や文型を選んで伝えようとするようになった。

評価事例 2 総合所見及び指導上参考となる諸事項

(1) 各教科や総合的な学習の時間に関する所見

- ・学習への意欲が高く、特に国語や社会の授業において発言が活発であった。
- ・理科の授業で学んだ知識を活用し、自由研究に意欲的に取り組んだ。
- ・国語は小学3年生、算数は小学2年生の目標及び内容に差し替えて指導を行った。
- ・長期欠席により学習期間に空白がある。国語は中学3年生の1単元目まで学習している。

(2) 特別活動に関する事実及び所見

- ・係活動として「保健係」を担当した。朝の会で毎日友達の健康観察を行うことを通して、学級のために働くことができた。
- ・学校祭では、友達と協力しながらオープニングの司会を務めることができた。
- ・中学部生徒会長として、話合いの場面で皆の意見をまとめることができた。

(3) 行動に関する所見

- ・友達の様子に気を配り、言葉を掛けながら協力して活動することができた。
- ・学校生活の中で決まりを意識して活動できる場面が増えてきた。
- ・2学期後半から、一日に3～4回、30秒程度のとんかん発作が見られた。発作に関する記録を付けるとともに、保護者と情報共有し対応している。
- ・急性気管支炎のため、令和○年○月○日から令和○年○月○日までの○日間入院した。

(4) 進路指導に関する事項

- ・本校高等部進学希望
- ・職場体験へ参加したことにより、作業学習に対する意欲や卒業後の自分の進路への関心が高まってきた。

(5) 児童生徒の特徴・特技、部活動〔中学部〕、学校内外におけるボランティア活動などの社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項

- ・日本漢字能力検定 4級
- ・地域のクリーン活動に年2回参加した。
- ・ハートピック陸上競技大会 中学部 100m 第1位（記録 14秒00）
- ・S-M社会生活能力検査 第3版
身辺自立4-4、移動2-11、作業5-1、コミュニケーション4-3、集団参加3-1、自己統制3-6、社会生活年齢3-7、社会生活指数 35、生活年齢 10-4（令和○年○月○日実施）
- ・遠距離視力：左 0.05（3m）ランドルト環単独視標使用
近距離視力：左 0.1（30cm）近距離単独視標使用
- ・療育手帳B1（令和○年○月再判定）

(6) 児童生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

- ・友達や教師の名前を覚え、友達と一緒に活動することを求めるようになった。
- ・相手の気持ちを考えるなど周囲を意識して行動することができるようになってきた。
- ・算数では、タブレット型端末を使用し筆記の負担を軽減したことで学習の効果が上がった。

(7) 交流及び共同学習

- ・児童の居住する地域の学校（○○市立○○小学校）の○年○組において年2回交流活動を実施し、図画工作や学級活動に参加した。交流校の児童と積極的に関わりながら学習に取り組むことができた。

<付属資料>

各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨
(小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部)

1-1. 小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部
並びに中学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）
中学部における各教科の学習の記録

国 語

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 国語>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	・言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

<中学校 国語>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 国語>

観点 学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年及び第2学年	・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもっている。	・言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをもったりしながら、言葉がもつよさを感じようとしているとともに、楽しんで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。
第3学年及び第4学年	・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめている。	・言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、言葉がもつよさに気付こうとしているとともに、幅広く読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。

第5学年及び第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、進んで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。
------------	---	--	--

<中学校 国語>

観点 学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を生活に役立て、言葉を適切に使おうとしている。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を通して自己を向上させ、言葉を適切に使おうとしている。

社会

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 社会>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解しているとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。

<中学校 社会>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 学年・分野別の評価の観点の趣旨

<小学校 社会>

観点 学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解しているとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域における社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを表現したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域における社会的事象について、地域社会に対する誇りと愛情をもつ地域社会の将来の担い手として、主体的に問題解決しようしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解しているとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域における社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを表現したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域における社会的事象について、地域社会に対する誇りと愛情をもつ地域社会の将来の担い手として、主体的に問題解決しようしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解しているとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土や産業の様子に関する社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土や産業の様子に関する社会的事象について、我が国の国土に対する愛情をもち産業の発展を願う国家及び社会の将来の担い手として、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解しているとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の政治と歴史及び国際理解に関する社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の政治と歴史及び国際理解に関する社会的事象について、我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情をもち平和を願い世界の国々の人々と共に生きることを大切にする国家及び社会の将来の担い手として、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

＜中学校 社会＞

観点 分野	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

<p>公民的分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めているとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会的事象について、国家及び社会の担い手として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
--------------	---	---	---

算数・数学

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 算数>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解している。 日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き粘り強く考えたり、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとしたり、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

<中学校 数学>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 算数>

観点 学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を積み重ね、数量や図形についての感覚を豊かにしている。 加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、身の回りにある量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表したりすることなどについての技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ものの数に着目し、具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方を考える力、ものの形に着目して特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の大きさの比べ方を考える力、データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉えるなどを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら算数で学ぼうとしている。

<p>第2学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念についての理解を深め、計算の意味と性質、基本的な図形（正方形、長方形、三角形、丸）の概念、量の概念、簡単な表とグラフなどについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにしている。 加法、減法及び乗法の計算をしたり、図形を構成したり、長さやかさなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数とその表現や数量の關係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力、平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力、身の回りの事象をデータの特征に着目して捉え、簡潔に表現したり考察したりする力などを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。
<p>第3学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数の表し方、整数の計算の意味と性質、小数及び分数の意味と表し方、基本的な図形（正方形、長方形、三角形、丸）の概念、量の概念、棒グラフなどについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにしている。 整数などの計算をしたり、図形を構成したり、長さや重さなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数とその表現や数量の關係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力、平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力、身の回りの事象をデータの特征に着目して捉え、簡潔に表現したり適切に判断したりする力などを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。
<p>第4学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小数及び分数の意味と表し方、四則の關係、平面図形と立体図形、面積、角の大きさ、折れ線グラフなどについて理解している。 整数、小数及び分数の計算をしたり、図形を構成したり、図形の面積や角の大きさを求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数とその表現や数量の關係に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素及びそれらの位置關係に着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの關係に着目し、変化や対応の特征を見いだして、二つの数量の關係を表や式を用いて考察する力、目的に応じてデータを収集し、データの特征や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。

<p>第5学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 整数の性質、分数の意味、小数と分数の計算の意味、面積の公式、図形の意味と性質、図形の体積、速さ、割合、帯グラフなどについて理解している。 小数や分数の計算をしたり、図形の性質を調べたり、図形的面積や体積を求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数とその表現や計算の意味に着目し、目的に合った表現方法を用いて数の性質や計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。
<p>第6学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分数の計算の意味、文字を用いた式、図形の意味、図形の体積、比例、度数分布を表す表などについて理解している。 分数の計算をしたり、図形を構成したり、図形的面積や体積を求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を見いだすとともに、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察する力、身の回りの事象から設定した問題について、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察したりする力などを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。

<中学校 数学>

観点 学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりしている。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いた式と連立二元一次方程式、平面図形と数学的な推論、一次関数、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりしている。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 数の平方根、多項式と二次方程式、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理、関数 $y=ax^2$、標本調査などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりしている。

理科

(1) 評価の観点及びその趣旨

＜小学校 理科＞

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象についての性質や規則性などについて理解しているとともに、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱いながら観察、実験などを行い、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

＜中学校 理科＞

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

(2) 学年・分野別の評価の観点の趣旨

＜小学校 理科＞

観点 学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 物の性質、風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質、電気の回路、身の回りの生物及び太陽と地面の様子について理解しているとともに、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 物の性質、風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質、電気の回路、身の回りの生物及び太陽と地面の様子について、観察、実験などを行い、主に差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 物の性質、風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質、電気の回路、身の回りの生物及び太陽と地面の様子についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 空気、水及び金属の性質、電流の働き、人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わり、雨水の行方と地面の様子、気象現象及び月や星について理解しているとともに、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 空気、水及び金属の性質、電流の働き、人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わり、雨水の行方と地面の様子、気象現象及び月や星について、観察、実験などを行い、主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 空気、水及び金属の性質、電流の働き、人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わり、雨水の行方と地面の様子、気象現象及び月や星についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 物の溶け方、振り子の運動、電流がつくる磁力、生命の連続性、流れる水の働き及び気象現象の規則性について理解しているとともに、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 物の溶け方、振り子の運動、電流がつくる磁力、生命の連続性、流れる水の働き及び気象現象の規則性について、観察、実験などを行い、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 物の溶け方、振り子の運動、電流がつくる磁力、生命の連続性、流れる水の働き及び気象現象の規則性についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性、電気の性質や働き、生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わり、土地のつくりと変化及び月の形の見え方と太陽との位置関係について理解しているとともに、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性、電気の性質や働き、生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わり、土地のつくりと変化及び月の形の見え方と太陽との位置関係について、観察、実験などを行い、主にそれらの仕組みや性質、規則性、働き、関わり、変化及び関係について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性、電気の性質や働き、生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わり、土地のつくりと変化及び月の形の見え方と太陽との位置関係についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

<中学校 理科>

観点 分野	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1分野	<ul style="list-style-type: none"> 物質やエネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 物質やエネルギーに関する事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。 	<ul style="list-style-type: none"> 物質やエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
第2分野	<ul style="list-style-type: none"> 生命や地球に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生命や地球に関する事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

生活

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 生活>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none">活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いているとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現している。	<ul style="list-style-type: none">身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとしている。

音 楽

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 音楽>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・ 表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

<中学校 音楽>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 音楽>

観点 学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年及び第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ・ 音楽表現を楽しむために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

第3学年及び第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
第5学年及び第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

<中学校 音楽>

観点 学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
第2学年及び第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

図画工作・美術

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 図画工作>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

<中学校 美術>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 図画工作>

観点 学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年及び第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付いている。 手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい楽しく表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。
第3学年及び第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かっている。 手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい進んで表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

第5学年及び第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。
------------	---	--	---

<中学校 美術>

観点 学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 意図に応じて表現方法を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
第2学年及び第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

家庭、技術・家庭

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 家庭>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

<中学校 技術・家庭>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

(2) 分野別の評価の観点の趣旨

<中学校 技術・家庭（技術分野）>

観点 分野	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
技術分野	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。

<中学校 技術・家庭（家庭分野）>

観点 分野	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家庭分野	<ul style="list-style-type: none"> 家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

体育・保健体育

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 体育>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動の行い方について理解しているとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。また、身近な生活における健康・安全について実践的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、身近な生活における健康に関する課題を見付け、その解決を目指して思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。また、健康を大切に、自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。

<中学校 保健体育>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

(2) 学年・分野別の評価の観点の趣旨

<小学校 体育>

観点 学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年及び第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動遊びの行い方について知っているとともに、基本的な動きを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動遊びの行い方を工夫しているとともに、考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動遊びの楽しさに触れることができるよう、各種の運動遊びに進んで取り組もうとしている。
第3学年及び第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動の行い方について知っているとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。また、健康で安全な生活や体の発育・発達について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、考えたことを他者に伝えている。また、身近な生活における健康の課題を見付け、その解決のための方法を工夫しているとともに、考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、各種の運動に進んで取り組もうとしている。また、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。

第5学年及び第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動の行い方について理解しているとともに、各種の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、心の健康やけがの防止、病気の予防について理解しているとともに、健康で安全な生活を営むための技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。また、身近な健康に関する課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、各種の運動に積極的に取り組もうとしている。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復についての学習に進んで取り組もうとしている。
------------	--	--	--

＜中学校 保健体育＞

観点 標準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体育分野	第1学年及び第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。
	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義についての考え方を理解しているとともに、選択した領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。
保健分野	<ul style="list-style-type: none"> 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。 	

外国語

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 外国語>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解している。 読むこと、書くことに慣れ親しんでいる。 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

<中学校 外国語>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

1-2. 特別支援学校（知的障害）小学部及び特別支援学校（知的障害）中学部における各教科の学習の記録

生活

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学部 生活>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いているとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしようとしていたりしている。

国語

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学部 国語>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「聞くこと・話すこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思い付いたり考えたりしながら、言葉で伝え合うよさを感じようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

<中学部 国語>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「聞くこと・話すこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、言葉がもつよさに気付こうとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

社会

(1) 評価の観点及びその趣旨

<中学部 社会>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや役割、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して理解しているとともに、経験したことと関連付けて、調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について、自分の生活と結び付けて具体的に考えたり、社会との関わりの中で、選択・判断したことを適切に表現したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。

算数・数学

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学部 算数>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none">数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解している。日常の事象を数量や図形に着目して処理する技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味をもち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとしたり、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとしたりしている。

<中学部 数学>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none">数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解している。日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したり目的に応じて柔軟に表したりする力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、粘り強く考えたり、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとしたり、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

理科

(1) 評価の観点及びその趣旨

<中学部 理科>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none">自然の事物・現象についての基本的な性質や規則性などについて理解しているとともに、器具や機器などを目的に応じて扱いながら観察、実験などを行い、それらの過程や得られた結果を記録している。	<ul style="list-style-type: none">自然の事物・現象について観察、実験などを行い、疑問をもつとともに、予想や仮説を立て、それらを表現するなどして問題解決している。	<ul style="list-style-type: none">自然の事物・現象に進んで関わり、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

音楽

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学部 音楽>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲名や曲想と音楽のつくりについて気付いている。 ・感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったり、身体表現で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさなどを見いだし、音や音楽を味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

<中学部 音楽>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったり、身体表現で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだし、音や音楽を味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

図画工作・美術

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学部 図画工作>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色などの造形的な視点に気付いている。 ・表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考えるとともに、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

< 中学部 美術 >

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点について理解している。 ・表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な特徴などからイメージを捉えながら、造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考えるとともに、経験したことや材料などを基に、発想し構想したり、造形や作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

体育・保健体育

(1) 評価の観点及びその趣旨

< 小学部 体育 >

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや基本的な運動の行い方について知っているとともに、基本的な動きを身に付けている。また、身近な生活における健康について知っているとともに、健康な生活に必要な事柄を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや基本的な運動についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら行動し、考えているとともに、それらを他者に伝えている。また、健康についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら考えているとともに、それらを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや基本的な運動に楽しく取り組もうとしている。また、健康に必要な事柄に取り組もうとしている。

< 中学部 保健体育 >

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等を理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。また、自分の生活における健康・安全について理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動についての自分の課題を見付け、その解決に向けて自ら思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。また、健康・安全についての自分の課題を見付け、その解決に向けて自ら思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとしている。

職業・家庭

(1) 評価の観点及びその趣旨

< 中学部 職業・家庭 >

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとしたりして、実践しようとしている。

外国語

(1) 評価の観点及びその趣旨

< 中学部 外国語 >

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を用いた体験的な活動を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとしている。

2-1. 小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における外国語活動の記録

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 外国語活動>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深めている。 日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

2-2. 特別支援学校（知的障害）小学部における外国語活動の記録

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学部 外国語活動>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気付いている。 外国語の音声に慣れ親しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとしている。

3. 総合的な学習の時間の記録

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 総合的な学習の時間の記録>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

<中学校 総合的な学習の時間の記録>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

4. 特別活動の記録

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 特別活動の記録>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

<中学校 特別活動の記録>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

5. 行動の記録

(1) 評価項目及びその趣旨

<小学校 行動の記録>

項目	学年	趣 旨
基本的な生活習慣	第1学年及び第2学年	安全に気を付け、時間を守り、物を大切にし、気持ちのよいあいさつを行い、規則正しい生活をする。
	第3学年及び第4学年	安全に努め、物や時間を有効に使い、礼儀正しく節度のある生活をする。
	第5学年及び第6学年	自他の安全に努め、礼儀正しく行動し、節度を守り節制に心掛ける。
健康・体力の向上	第1学年及び第2学年	心身の健康に気を付け、進んで運動をし、元気に生活をする。
	第3学年及び第4学年	心身の健康に気を付け、運動をする習慣を身に付け、元気に生活をする。
	第5学年及び第6学年	心身の健康の保持増進と体力の向上に努め、元気に生活をする。
自主・自律	第1学年及び第2学年	よいと思うことは進んで行い、最後までがんばる。
	第3学年及び第4学年	自らの目標をもって進んで行い、最後までねばり強くやり通す。
	第5学年及び第6学年	夢や希望をもってより高い目標を立て、当面の課題に根気強く取り組み、努力する。
責任感	第1学年及び第2学年	自分でやらなければならないことは、しっかりと行う。
	第3学年及び第4学年	自分の言動に責任をもち、課せられた役割を誠意をもって行う。
	第5学年及び第6学年	自分の役割と責任を自覚し、信頼される行動をする。
創意工夫	第1学年及び第2学年	自分で進んで考え、工夫しながら取り組む。
	第3学年及び第4学年	自分でよく考え、課題意識をもって工夫し取り組む。
	第5学年及び第6学年	進んで新しい考えや方法を求め、工夫して生活をよりよくしようとする。
思いやり・協力	第1学年及び第2学年	身近にいる人々に温かい心で接し、親切にし、助け合う。
	第3学年及び第4学年	相手の気持ちや立場を理解して思いやり、仲よく助け合う。
	第5学年及び第6学年	思いやりと感謝の心をもち、異なる意見や立場を尊重し、力を合わせて集団生活の向上に努める。
生命尊重・自然愛護	第1学年及び第2学年	生きているものに優しく接し、自然に親しむ。
	第3学年及び第4学年	自他の生命を大切にし、生命や自然のすばらしさに感動する。
	第5学年及び第6学年	自他の生命を大切にし、自然を愛護する。

勤労・奉仕	第1学年及び第2学年	手伝いや仕事を進んで行う。
	第3学年及び第4学年	働くことの大切さを知り、進んで働くようにする。
	第5学年及び第6学年	働くことの意義を理解し、人や社会の役に立つことを考え、進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	第1学年及び第2学年	自分の好き嫌いや利害にとらわれなくて行動する。
	第3学年及び第4学年	相手の立場に立って公正・公平に行動する。
	第5学年及び第6学年	だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく、正義を大切にし、公正・公平に行動する。
公共心・公德心	第1学年及び第2学年	約束やきまりを守って生活し、みんなが使うものを大切にする。
	第3学年及び第4学年	約束や社会のきまりを守って公德を大切にし、人に迷惑をかけないように心掛け、のびのびと生活する。
	第5学年及び第6学年	規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、学校や人々の役に立つことを進んで行う。

<中学校 行動の記録>

項目	学年	趣 旨
基本的な生活習慣	第1学年、第2学年及び第3学年	自他の安全に努め、礼儀正しく節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
健康・体力の向上	第1学年、第2学年及び第3学年	活力ある生活を送るための心身の健康の保持増進と体力の向上に努めている。
自主・自律	第1学年、第2学年及び第3学年	自分で考え、的確に判断し、自制心をもって自律的に行動するとともに、より高い目標の実現に向けて計画を立て根気強く努力する。
責任感	第1学年、第2学年及び第3学年	自分の役割を自覚して誠実にやり抜き、その結果に責任を負う。
創意工夫	第1学年、第2学年及び第3学年	探究的な態度をもち、進んで新しい考えや方法を見付け、自らの個性を生かした生活を工夫する。
思いやり・協力	第1学年、第2学年及び第3学年	だれに対しても思いやりと感謝の心をもち、自他を尊重し広い心で共に協力し、よりよく生きていこうとする。
生命尊重・自然愛護	第1学年、第2学年及び第3学年	自他の生命を尊重し、進んで自然を愛護する。
勤労・奉仕	第1学年、第2学年及び第3学年	勤労の尊さや意義を理解して望ましい職業観をもち、進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	第1学年、第2学年及び第3学年	正と不正を見極め、誘惑に負けることなく公正な態度がとれ、差別や偏見をもつことなく公平に行動する。
公共心・公德心	第1学年、第2学年及び第3学年	規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国の伝統と文化を大切にし、国際的視野に立って公共のために役に立つことを進んで行う。

第4 指導要録の抄本及び写し

1 取扱い

- (1) 進学又は転学した児童生徒については、直ちに指導要録の抄本又は写しを作成し、進学先又は転学先の校長に送付する。なお、指導要録の写しについては、複写機を用いて作成してもよい。
- (2) 幼稚園や特別支援学校等から送付を受けた抄本又は写しは、指導要録に準じて名列表、表紙等を付してとじておく。児童生徒の転学によって送付を受けた写しも、このつづりにとじこむとともに、当該児童生徒の氏名を名列表に書き加える。
- (3) 児童生徒が転学した場合は、当該児童生徒の指導要録の抄本又は写しとともに、幼稚園や特別支援学校等から送付を受けた抄本又は写しも転学先の校長に送付することになるので、名列表の訂正など所要の手続をとるようにする。

2 指導要録抄本

(1) 一般的な事項

ア 指導要録の記載事項又はそのうちの必要事項を選んで記入する。

なお、記載事項は、おおむね下記の事項を含むものとする。

(ア) 学校名及び所在地

(イ) 児童生徒の氏名、性別、生年月日及び現住所

(ウ) 卒業年月日

(エ) 小学校第6学年又は中学校第3学年の各教科の学習の記録

(オ) 小学校第6学年又は中学校第3学年の道徳科の記録

(カ) 小学校第6学年又は中学校第3学年の総合的な学習の時間の記録（特別支援学校（知的障害）小学部を除く。）

(キ) 小学校第6学年又は中学校第3学年の特別活動の記録

(ク) 小学校第6学年又は中学校第3学年の自立活動の記録

(ケ) 入学時の障害の状態

(コ) 小学校第6学年又は中学校第3学年の行動の記録

(サ) その他将来の指導上必要と思われるものがある場合にはその事項

イ 記入の方法等については、指導要録に準じる。ただし、記入時に学級担任が転任している場合は、その氏名を記入し、実際の記入者が氏名を下方又は右方に併記する。

(2) 記入上の注意

ア 各教科の学習の記録

観点別学習状況及び評定については、指導要録の記載どおり記入する。

イ 特別の教科 道徳の記録

学習状況や道徳性に係る成長の様子については、指導要録の記載どおり記入する。

ウ 総合的な学習の時間の記録

学習活動、観点及び評価については、指導要録の記載どおり記入する。

エ 特別活動の記録

観点及び活動の状況については、指導要録の記載どおり記入する。

オ 自立活動の記録

指導要録の記載どおり記入する。

カ 入学時の障害の状態

指導要録の記載どおり記入する。

キ 行動の記録

行動の状況については、指導要録の記載どおり記入する。

ク 総合所見及び指導上参考となる諸事項のうちの必要事項

指導上参考となる諸事項の欄に記載されている事項のうち将来の指導上必要と思われる事項だけを記入する。また、小学部第1～5学年又は中学部第1・2学年の記載内容で、特に将来の指導上必要と思われる内容がある場合には、学年を明記して記入する。

なお、記入する事項のない場合には、斜線（右上り）を引く。

ケ 出欠の記録

各項目の日数は、指導要録の記載どおり記入する。

「備考のうちの必要事項」には将来の指導上必要と思われる事項を記入する。また、小学部第1～5学年又は中学部第1・2学年の記載内容で、将来の指導上特に必要と思われる内容がある場合には、学年を明記して記入する。

なお、記入する事項のない場合には、斜線（右上り）を引く。

3 指導要録の写し

進学先あるいは転学先に送付する指導要録の写しは、欄外に㊦と記入し、次の事項を欄外の適切な場所に記入押印する。複写機を用いて作成する場合も同様とする。

- (1) 「この指導要録の写しは、原本と相違ないことを証明する」旨の文
- (2) 証明の年月日
- (3) 学校名及び校長氏名、証明の印（職印）

<指導要録抄本様式>

○ 用紙の規格等

- ・ 日本産業規格 A 4 判縦型とし、紙質は 45 kg 程度の上質紙とする。
- ・ 小学部においては令和 2 年度から、中学部においては令和 3 年度から使用する。

【別紙 5】

[視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校]

小学部児童指導要録抄本

【別紙 6】

[視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校]

中学部生徒指導要録抄本

【別紙 7】

[知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校]

小学部児童指導要録抄本

【別紙 8】

[知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校]

中学部生徒指導要録抄本

小学部児童指導要録抄本

学 校 名				校 長 氏 名 印					
現 住 所				学 級 担 任 者 氏 名					
学 籍 の 記 録									
児 童	ふりがな 氏 名			性 別					
	生 年 月 日	年	月	日 生	保 護 者 氏 名				
	現 住 所				現 住 所				
	卒 業 年 月 日	年	月	日					
第 6 学 年 の 各 教 科 の 学 習 の 記 録									
I 観 点 別 学 習 状 況				II 評 定	I 観 点 別 学 習 状 況				II 評 定
教 科	観 点		評 価		教 科	観 点		評 価	
国 語	知識・技能			図 画 工 作	知識・技能				
	思考・判断・表現				思考・判断・表現				
	主体的に学習に取り組む態度				主体的に学習に取り組む態度				
社 会	知識・技能			家 庭	知識・技能				
	思考・判断・表現				思考・判断・表現				
	主体的に学習に取り組む態度				主体的に学習に取り組む態度				
算 数	知識・技能			体 育	知識・技能				
	思考・判断・表現				思考・判断・表現				
	主体的に学習に取り組む態度				主体的に学習に取り組む態度				
理 科	知識・技能			外 国 語	知識・技能				
	思考・判断・表現				思考・判断・表現				
	主体的に学習に取り組む態度				主体的に学習に取り組む態度				
音 楽	知識・技能								
	思考・判断・表現								
	主体的に学習に取り組む態度								
第 6 学 年 の 特 別 の 教 科 道 徳 の 記 録				第 6 学 年 の 総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 記 録					
学習状況及び道徳性に係る成長の様子				学 習 活 動	観 点	評 価			
第 6 学 年 の 特 別 活 動 の 記 録				第 6 学 年 の 行 動 の 記 録					
内 容	観 点		評 価	項 目	評 価	項 目	評 価		
学級活動				基本的な生活習慣		思いやり・協力			
児童会活動				健康・体力の向上		生命尊重・自然愛護			
クラブ活動				自主・自律		勤労・奉仕			
学校行事				責任感		公正・公平			
				創意工夫		公共心・公德心			
自 立 活 動 の 記 録				入 学 時 の 障 害 の 状 態					
第 6 学 年 の 総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と なる 諸 事 項 の うち の 必 要 事 項				第 6 学 年 の 出 欠 の 記 録					
				授 業 日 数	出 席 停 止 ・ 忌 引 等 の 日 数	出 席 し な け れ ば な ら ない 日 数	欠 席 日 数	出 席 日 数	
				備 考 の うち の 必 要 事 項					

【別紙6】〔視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校〕

中学部生徒指導要録抄本

学 校 名		校長氏名印							
現 住 所		学級担任者氏名							
学 籍 の 記 録									
生 徒	ふりがな氏名	性別	保 護 者 ふりがな氏名 現住所						
	生年月日	日生							
	現住所								
	卒業年月日	年月日							
第 3 学 年 の 各 教 科 の 学 習 の 記 録									
I 観 点 別 学 習 状 況		II 評 定	I 観 点 別 学 習 状 況		II 評 定				
教科	観 点		評 価	教科		観 点	評 価		
国 語	知識・技能		保 健 体 育	知識・技能					
	思考・判断・表現			思考・判断・表現					
	主体的に学習に取り組む態度			主体的に学習に取り組む態度					
社 会	知識・技能		技 術 ・ 家 庭	知識・技能					
	思考・判断・表現			思考・判断・表現					
	主体的に学習に取り組む態度			主体的に学習に取り組む態度					
数 学	知識・技能		外 国 語	知識・技能					
	思考・判断・表現			思考・判断・表現					
	主体的に学習に取り組む態度			主体的に学習に取り組む態度					
理 科	知識・技能								
	思考・判断・表現								
	主体的に学習に取り組む態度								
音 楽	知識・技能		第 3 学 年 の 特 別 の 教 科 道 徳 の 記 録 学習状況及び道徳性に係る成長の様子						
	思考・判断・表現								
	主体的に学習に取り組む態度								
美 術	知識・技能								
	思考・判断・表現								
	主体的に学習に取り組む態度								
第 3 学 年 の 総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 記 録			第 3 学 年 の 特 別 活 動 の 記 録						
学 習 活 動	観 点	評 価	内 容	観 点	評 価				
			学級活動						
			生徒会活動						
			学校行事						
第 3 学 年 の 行 動 の 記 録									
基本的な生活習慣	健康・体力の向上	自主・自律	責任感	創意工夫	思いやり・協力	生命尊重・自然愛護	勤労・奉仕	公正・公平	公共心・公德心
自 立 活 動 の 記 録			入 学 時 の 障 害 の 状 態						
第3学年の総合所見及び指導上参考となる諸事項のうちの必要事項			第 3 学 年 の 出 欠 の 記 録						
			授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しなければならぬ日数	欠席日数	出席日数		
			備 考 の う ち の 必 要 事 項						

小学部児童指導要録抄本

学 校 名				校 長 氏 名 印					
現 住 所				学 級 担 任 者 氏 名					
学 籍 の 記 録									
児 童	ふりがな氏名			性別					
	生年月日	年 月 日		保 護 者	ふりがな氏名				
	現住所				現住所				
	卒業年月日	年 月 日							
第 6 学 年 の 各 教 科 ・ 特 別 活 動 ・ 自 立 活 動 の 記 録									
生 活				音 楽					
国 語				図 画 工 作					
算 数				体 育	入 学 時 の 障 害 の 状 態				
第 6 学 年 の 特 別 の 教 科 道 徳 の 記 録				第 6 学 年 の 行 動 の 記 録					
学習状況及び道徳性に係る成長の様子									
第 6 学 年 の 総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と なる 諸 事 項 の うち の 必 要 事 項				第 6 学 年 の 出 欠 の 記 録					
				授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	
				備考のうち の必要事項					

中学部生徒指導要録抄本

学 校 名				校長氏名印			
現 住 所				学級担任者氏名			
学 籍 の 記 録							
生 徒	ふりがな氏名			性別			
	生 年 月 日	年	月	日生	保 護 者 氏 名		
	現 住 所				保 護 者 現 住 所		
	卒 業 年 月 日	年	月	日			
第 3 学 年 の 各 教 科 ・ 特 別 活 動 ・ 自 立 活 動 の 記 録							
国 語				保 健 体 育			
社 会				職 業 ・ 家 庭			
数 学				そ の 他			
理 科				特 別 活 動			
音 楽				自 立 活 動			
美 術				入 学 時 の 障 害 の 状 態			
第 3 学 年 の 特 別 の 教 科 道 徳 の 記 録				第 3 学 年 の 総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 記 録			
学 習 状 況 及 び 道 徳 性 に 係 る 成 長 の 様 子				学 習 活 動	観 点	評 価	
第 3 学 年 の 行 動 の 記 録				第 3 学 年 の 総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と なる 諸 事 項 の うち の 必 要 事 項			
第 3 学 年 の 出 欠 の 記 録					備 考 の うち の 必 要 事 項		
授 業 日 数	出 席 停 止 ・ 忌 引 等 の 日 数	出 席 し な け れ ば 不 可 能 な 日 数	欠 席 日 数	出 席 日 数			

特別支援学校の小学部児童指導要録・中学部生徒指導要録の手引作成委員

所 属	職 名	氏 名	備 考
県 立 盲 学 校	教 諭	大 歳 彩矢香	
県 立 聾 学 校	主幹教諭	平 野 容 子	委 員 長
県立わかくさ特別支援学校	教 諭	荒 木 寛 子	
県立富屋特別支援学校	教 諭	佐 藤 由 記	
県立富屋特別支援学校鹿沼分校	教 諭	福 田 有 宏	
県立足利特別支援学校	教 諭	野 中 泰 子	
県立益子特別支援学校	教 諭	床 井 美代子	
県立那須特別支援学校	教 諭	戸 村 友美枝	副委員長
総 合 教 育 セ ン タ ー	指導主事	絵 面 悦 子	

本手引の作成は、栃木県教育委員会事務局特別支援教育室 副主幹 藤本 勝 が担当した。
 なお、編集に当たり、栃木県教育委員会事務局から、次の者が参加した。

特別支援教育室	室長補佐(総括)	松村 和美
同	副 主 幹	玉田 敦子
同	係 長	海老沢 豊
同	副 主 幹	矢野 勝昭
同	副 主 幹	青柳 晋作
同	指導主事	岩崎 実香
同	指導主事	赤堀 雅史
同	指導主事	田辺さや佳

特別支援学校の小学部児童指導要録・中学部生徒指導要録の手引

令和2(2020)年3月
 栃木県教育委員会



「栃木の子どもをみんなで育てよう」運動

うちの子・よその子・栃木の子、みんなで育てて明るい未来